

進路指導主題（題材）系統図

学年目標	自己理解	進路の計画	進路情報	価値観(勤労観・職業観)
1年 自分の進路についての関心を高め、自己理解と自己伸長に努めようとする態度を養う。	1-7 自分を知る	1-1, 2 わたしの夢と希望(1)(2) 1-3 進路の学習 1-8 自己実現に向けて 1-9 進路の計画	1-5 身近な人々の職業(2)	1-4 身近な人々の職業(1) 1-6 働く人たちの考え
2年 自分の特色および進路の情報を理解して、一層明確な進路の希望や計画をもち、実現しようとする態度を育てる。	2-8 自分の考えをまとめる	2-9 私の進路計画	2-2 職業について知る 2-3 職場体験の計画 2-4 職場体験の交流 2-5 資格の必要な職業 2-7 高等学校と専修学校の種類と特色	2-1 働くことの目的と意義 2-6 学ぶことの目的と意義
3年 自分の適性や環境を確かめ、適切な進路を選択決定させるとともに、将来の生活に適應・向上していける能力を養う。		3-1 進路選択の諸条件 3-2 進路計画の発表 3-6 進路の決定 3-7 志望実現への努力 3-8 受験にあたって	3-3 進路先の調査 3-4, 5 学校見学から学ぶ(1)(2)	3-9 将来へ向かって
追究編	2 自分の特性を知る 3 学習の見直し	5 自分はどんな生き方を願っているか	4 高校の先生(先輩)から学ぶ	1 職業調べ

進路指導

■印刷 株式会社 佐藤印刷所

■発行 株式会社 秀学社
大阪市住吉区南住吉4-7-5
〒558-0041 TEL 06-6695-1331
FAX 06-6606-5171

「生きる」の授業展開

編集 岐阜県進路指導研究会

万一、乱丁・落丁などがございました場合は、おとりかえいたします。

進路指導

「生きる」の授業展開

岐阜県進路指導研究会

もくじ

第1学年	第2学年
1-1 わたしの夢と希望(1)..... 1	2-1 働くことの目的と意義..... 19
1-2 わたしの夢と希望(2)..... 3	2-2 職業について知る..... 21
1-3 進路の学習..... 5	2-3 職場体験の計画..... 23
1-4 身近な人々の職業(1)..... 7	2-4 職場体験の交流..... 25
1-5 身近な人々の職業(2)..... 9	2-5 資格の必要な職業..... 27
1-6 働く人たちの考え..... 11	2-6 学ぶことの目的と意義..... 29
1-7 自分を知る..... 13	2-7 高等学校と専修学校の種類と特色..... 31
1-8 自己実現に向けて..... 15	2-8 自分の考えをまとめる..... 33
1-9 進路の計画..... 17	2-9 私の進路計画..... 35
第3学年	追究編
3-1 進路選択の諸条件..... 37	1 職業調べ..... 55
3-2 進路計画の発表..... 39	2 自分の特性を知る..... 57
3-3 進路先の調査..... 41	3 学習の見直し..... 59
3-4 学校見学から学ぶ(1)..... 43	4 高校の先生(先輩)から学ぶ..... 61
3-5 学校見学から学ぶ(2)..... 45	5 自分はどんな生き方を願っているか..... 63
3-6 進路の決定..... 47	※ 職場体験資料..... 65
3-7 志望実現への努力..... 49	※ 職場体験学習報告レポート..... 66
3-8 受験にあたって..... 51	
3-9 将来へ向かって..... 53	

1-1 わたしの夢と希望 (1)

進路の計画

1. 題材設定の理由

中学に入学して1カ月が過ぎ、中学校の生活にもようやく慣れてきた頃である。この時期にあたって、自分の将来の夢や希望について考えさせることは、中学生生活を充実させるためにも大変重要である。

また、この時期の生徒の多くは、将来のことについてただ漠然と「高校に行きたい」という気持ちをもっているだけで、自分を深く見つめたり、将来の目標をもち、それをめざし努力したりすることが、自分の学習を充実させることにつながることに気づいている生徒は少ない。

そこで、将来の夢や目標をもち、それに向かって努力することの大切さを理解させ、自分の学習や生活をさらに充実させていこうとする意欲を高めたい。

2. 指導のねらい

将来の夢や目標をもち、それに向かって努力することが自分の中学生生活を充実させることにつながることを理解させ、その実現に向けてどのような努力をしていけばよいのか考えさせる。

3. 指導計画 (全2時間)

事前	・進路学習について、題材設定の理由をもとに説明しておく。
本時	・夢や目標をもつことの大切さを理解し、自分のめざす目標を記入する。
第2時	・夢や目標を実現するためには、どのような努力をしていく必要があるのか考えさせる。
事後	・P.7の記入事項を確認して、事後の個別指導を行う。

<説話例>

「空虚な目標であれ、目標を目指して努力する過程にしか、人間の幸福は存在しない。」

出典：三島由紀夫『小説家の息子』(S.38年)

「何のために勉強するのか」—— 君たちはこうした疑問を今までに何度となくもったことがあるでしょう。結論からいえば、勉強とは自分の人生の目標を達成したり、夢を現実のものとして実現するためにするのだ、といえます。つまり、勉強とは自分の目標や夢があってこそ充実するのだともいえるのです。自分の将来の夢や目標をもちましょう。今日の授業の中でも何人かの人が「将来の目標や夢がない」と答えていましたが、やはり将来の夢や目標をもち、それに向かって努力することを大切にしたいものです。そういう努力の過程が、人間としての充実感や幸福感をもたらしてくれるものなのです。急に「夢や目標をもて!」といわれても困る人も多いと思います。そうした人は、今自分がいちばん興味・関心のある

ことや仕事を連想してみましょう。昔から「好きこそものの上手なれ」といいますが、自分の好きなこと、得意なことは何時間やっても飽きないでしょう。まずはこんな所から将来の目標や夢を作っていくことも大切だと思います。ともあれ、まずは自分の将来の夢や目標を作り、それに向かって努力していくことを大切にしていきたいものですね。

昭和の偉大な小説家三島由紀夫は、その自伝的小説『小説家の息子』の中で人間の幸福についてこう述べています。「空虚な目標であれ、目標を目指して努力する過程にしか、人間の幸福は存在しない。」また、三木清という哲学者はその著『人生論ノート』の中でこう述べています。「人生においては何事も偶然である。しかしまた人生においては何事も必然である。」—— みなさん、君たちにはすばらしい将来、輝ける未来があります。自分の人生に夢や目標をもち、これからの中学生生活を充実させていきましょう。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・ P.6 ①を見て様々な夢や希望をもっている生徒もいるが、将来の目標がない生徒もいることを知る。 ・ 将来の夢や希望の有無を発表し、学級の仲間の実態を知る。	◎P.6 ①を見て、②に気づいたことを記入し、発表する。 ・ いろんな仕事を希望しているなあ。 ・ 夢があり個性的だなあ。 ・ でも将来の目標や希望がないという人もいるよ。 ◎自分の将来の夢や希望の有無を挙手する。	・ 資料を提示して、意外に将来の夢や目標がないという生徒がいることを浮き彫りにする。 ・ 仲間の意思表示から、将来の夢や目標をもつことの大切さに気づかせる。	・ P.6 ①、②
		課題：将来の夢や希望を話し合おう。		
中心の活動	・ P.7 ③の作文を読み、将来の夢や目標をもち、その理由がはっきりしていることが大切であることを理解する。	◎P.7 ③の高橋尚子さんのメッセージから、感じたことを交流する。 ・ 自分の好きなことをやっていくことはすばらしい。 ・ 一生やっていきたいことがあって羨ましい。 ・ 好きだからといって、長く続けられるのはすごい。 ・ まだまだ自分の可能性を広げようとしているので驚いた。 ・ 私も自分の好きなことを見つけて頑張りたい。 ◎夢を実現するためには、どんなことが必要か発表する。 ・ 目標をもつ ・ 目標に向かって努力する ◎夢を実現するために努力している生徒の意見を発表する。	・ 教師が範読して、必要に応じて説明を付け加える。 ・ 将来の目標や夢がはっきりしており、それに向かって努力しようとしている様子を浮き彫りにする。 ・ 自分の夢や希望をもつことがすばらしいことだと理解させる。 ・ 目標はあるが、漠然としているため努力する姿にまでは結びついていない生徒が多い。目標をもつとともに、努力することの大切さにも気づかせたい。	・ P.7 ③
まとめの活動	・ 夢を大切に、実現するためのねばり強い努力が、学習や生活を充実させることにつながることを理解させ、進路学習を充実していこうとする意欲を高める。	◎自分の夢や希望をしっかりとP.7の④に記入する。 ◎本時の授業の感想についてまとめる。	・ 理由についても記入できるように時間をしっかりとる。 ・ 全員が記入できるように援助する。	・ P.7 ④

1-2 わたしの夢と希望 (2)

進路の計画

1. 題材設定の理由

中学に入学して1カ月が過ぎ、中学校の生活にもようやく慣れてきた頃である。この時期にあたって、自分の将来の夢や希望について考えさせることは、中学生生活を充実させるためにも大変重要である。

また、この時期の生徒の多くは、将来のことについてただ漠然と「高校に行きたい」という気持ちをもっているだけで、自分を深く見つめたり、将来の目標をもち、それをめざし努力したりすることが、自分の学習を充実させることにつながることに気づいている生徒は少ない。

そこで、将来の夢や目標をもち、それに向かって努力することの大切さを理解させ、自分の学習や生活をさらに充実させていこうとする意欲を高めたい。

2. 指導のねらい

将来の夢や目標をもち、それに向かって努力することが自分の中学生生活を充実させることにつながることを理解させ、その実現に向けてどのような努力をしていけばよいのか考えさせる。

3. 指導計画（全2時間）

事前	・P.7の④に全員記入させ、学級の結果を表やグラフにまとめておく。
第1時	・夢や目標をもつことの大切さを理解し、それをめざし努力しようとする意欲を高める。
本時	・夢や目標を実現するためには、どのような努力をしていく必要があるのか考えさせる。
事後	・P.9の記入事項を確認して、事後の個別指導を行う。

<説話例>

「玉磨かざれば光りなし、光りなきを石瓦（せきが）という」

出典：『実語教』（平安時代末期）

「玉磨かざれば光りなし、光りなきを石瓦（せきが）という」ということわざがあります。高価な宝石も一生懸命磨かなければ、光のない石瓦（いしかわら）に等しい。すばらしい素質や才能、可能性をもっていても、懸命に努力し、自分を錬磨していかなければその真価を発揮することはできない、といったとえです。この間の進路の学習で「夢や目標をもち、それに向かって努力することを大切にしましょう。」ということを知りました。努力というのは言葉で言うのは簡単ですが、自分の欲求に流されない強い意志が必要ですので、苦痛が伴います。

見たいテレビも我慢して、テスト勉強に邁進した、そんな経験もみなさんにはあるでしょう。これが努力というもの的一端です。しかし、努力というものは、継続していかなければ自分の力にもなりませんし、夢や目標も達成することはできません。せっかくすばらしい能力や可能性をもっていても、手を抜いて努力を怠っていれば自分の夢や希望も実現できるはずはないのです。まさに「玉磨かざれば光りなし、光りなきを石瓦という」です。自分をじっくり見つめ、夢や希望を達成するためにやった方がよいと考えることはどんどんやっていくのです。「天才は有限、努力は無限」です。

君たちにはすばらしい将来、輝ける未来と可能性があります。自分の人生に夢や目標をもち、ねばり強く努力しながらこれからの中学生生活を充実させていきましょう。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・P.7の④の結果をもとに、感想を発表し合い、努力している生徒の姿勢を学ぼうという気持ちをもつ。 ・夢や希望の実現のために、努力が必要なこと気づく。	◎P.7の④の学級の結果を表やグラフを見て、気がついたことや感想を発表する。 ・〇〇が多くておどろいた。 ・いろいろ職業を考えているんだと思った。 ・なりたい理由がはっきりしてすごい。	・P.7④の結果を表やグラフにして提示してもよい。 ・軽く触れる程度にし、深い追求はしない。	・P.7④の結果を表やグラフにしたものの
	課題：夢や希望の実現のためには、どのような努力が必要だろうか。			
中心の活動	・P.8①のA子さんの作文を読み、夢や希望の実現のためにどのような努力が必要なのか考える。 ・自分を見つめ、自分自身の努力すべき点を見つけることができる。	◎A子さんの作文を読む。 ◎A子さんの作文を読んで、分かったことや気がついたことをP.9の②に記入する。 ◎A子さんの作文で分かったことや気づいたことを発表する。 ・努力すべき点を考えている。 ・将来の夢や、それを選んだ理由がはっきりしている。 ・A子さんは具体的な仕事の内容まで調べている。 ・勉強だけでなく、他にも努力しなくてはいけないことがわかっていてすごい。 ◎P.9の③に記入する。	・A子さんの作文から、進路の目標をしっかりとつこと大切さと、自分を見つめ具体的に努力することの大切さを理解させる。 ・机間指導で現在の生活や学習姿勢を振り返らせ、単なる理想論にならないように助言する。 ・この段階では夢や希望をもてない生徒がいると予想される。個別指導で本人の興味・関心を広げて夢をもたせる。	・P.8①のA子さんの作文 ・P.9③
まとめの活動	・各自の希望実現に向けて、自己の努力の方向が理解でき、進路計画の重要性に気づく。	◎数名の生徒が自分の努力点について発表する。 ・1日2時間学習を継続して力をつける。 ・部活動を頑張り体力をつける。 ・目標とする仕事の内容について、家族に聞いたりして今から調べていきたい。 ・夢の実現のために、特に英語などの語学を中心に頑張りたい。 ◎本時の授業の感想についてまとめる。	・発表した生徒の内容を評価しながら、聞いている生徒にも書いた内容の見直しをさせる。 ・強い体力・精神力づくりの面での感想も「その他」の中でしっかりとおさえ、大切に気づかせる。 ・努力することを明確にするとともに進路計画の大切さについても気づかせる。	・P.9③

1-3 進路の学習

進路の計画

1. 題材設定の理由

自分の進路を決定する第一の要因は、自分が将来就きたい職業や実現したい夢・希望である。中学生ともなれば、「野球選手になりたい」「キャビンアテンダントになって外国へ行きたい」という単なる憧れから、「パソコン関係の会社へ入って自分の特技を生かしたい」「福祉に興味があるので、将来は福祉関係の職場に就職したい」という、現実味を帯びた夢や希望に変わってくるものである。

本時では、前時の自分が抱いていた夢・希望を実現するために「進路学習」が必要なことや中学校3年間を通して学習する内容を理解させ、主体的に「進路学習」に取り組もうとする意欲・態度を育成したい。

2. 指導のねらい

自分の夢や希望を実現するために、中学校3年間で「進路学習」を行うことの意義を理解させ、学習内容の把握を通して主体的に学習しようとする意欲・態度をもたせる。

3. 指導計画（全1時間）

本 時	・進路学習の意義を理解し、自分の夢や希望の実現に向かって、計画的に学習することの大切さが分かる。
事 後	・P.11②の「学びたいこと、調べたいこと」を学級通信でクラスの仲間知らせる。

<説話例> 「進路先送り、人生の遠回り」

Cさんは看板業を営んでいる42歳の働き盛りです。彼は大学卒業の学歴をしていますが、看板業の世界に飛び込んだのは、実は30歳になってからでした。それまでは転職を繰り返しながら、自分に適した仕事を探していたのです。彼は中学生だった頃、「高校・大学へ進学するのは当たり前。大学で就職のことは考えればいい。」と思い、将来の夢や希望をもたないまま普通科高校を選択し、大学も合格できる範囲で選択したのでした。彼は大学を

卒業した後、塾の講師やガソリンスタンド・自動車の板金・清涼飲料会社に就職しましたが長続きしませんでした。そんなCさんが最後に出会ったのが看板の仕事だったのです。彼は看板屋で10年間修行した後、昨年の春に独立して自分の店をもちました。Cさんは言います。「もっと早く看板業に出会っていればなあ。中学生や高校生の時に、もっと自分の将来の職業や夢を見据えて進路を決定していれば、30代で書道教室へ通わなくてもよかっただろうし、もっと早く独立して自分の店がもてただろうに……。」

	活動のねらい	活 動 の 内 容	指導・援助の留意点	資料等
は じ め の 活 動	・自分の夢や希望を確認し、夢の実現に向かって先輩たちが大切にしてきたことが分かる。	◎自分の将来の「夢や希望」を確認する。 ・P.7④を確認する。 ◎資料「中学生のみなさんへ」を読んで、S男さんは何を私達に言おうとしているのかを考える。S男さんが言おうとしていることをP.11①に記入する。 ・進路を決定するまでの進路の見方・考え方や勉強の仕方が大切だ。 ・進路の学習を通して、計画的に卒業後の進路や自分の夢の実現に向かうことができた。	・範読を聞きながら、S男さんが言いたい所にアンダーラインを引く。	・P.7④ ・P.10のS男さんの手紙 ・P.11①
	課題：これからの進路学習の内容を知り、自分の夢や希望を実現していくために、どんなことが必要なのか考えよう。			
中 心 的 な 活 動	・進路学習の意義が分かり、中学校3年間で学習する内容を把握することができる。	◎自分の夢や希望の実現に向かって取り組まなければならないことが分かり、進路学習の意義を理解する。 ・P.11の「進路の道すじ」について先生から説明を聞く。 ・自分の夢や希望の実現に向かって取り組まなければならないことがわかる。 ・進路学習の大切さや意義を理解する。 ◎進路学習の内容を知る。 ・目次で各学年の学習内容を知る。 ・「進路の道すじ」と比較しながら、各学年の学習内容を把握する。 ①自己理解…1-7, 2-8, 資料編③, ④ ②進路の計画…1-1・2・3・8・9, 2-9, 3-1・2・6・7・8, 資料編⑤ ③進路情報…1-5, 2-2・3・4・5・7, 3-3・4・5, 資料編② ④勤労観・職業観…1-4・6, 2-1・6, 3-9, 資料編①	・S男さんが言おうとしていることと進路学習を結びつける。 ・「進路の道すじ」を電子黒板に拡大して黒板に貼付する。 ・「進路の道すじ」を4つの視点から説明する。 ①自己理解 ②進路の計画 ③進路情報 ④勤労観・職業観 ・生徒にページをめくって目次を出させ、1学年から順番に確認させる。 ・電子黒板に貼付した「進路の道すじ」の4つの視点と絡ませて、学習内容を理解させる。	・電子黒板「進路の道すじ」 ・P.11「進路の道すじ」 ・表紙裏の目次
ま と め の 活 動	・自分の夢や希望の実現に向かって、積極的に取り組もうとする意欲をもつことができる。	◎進路学習について「学びたいこと、調べたいこと」をP.11②に記入する。 ◎本時のまとめを発表する。	・生徒一人一人の「知りたいことや学びたいこと」は、学級通信に掲載して紹介・交流する。	・P.11②

1-4 身近な人々の職業 (1)

1. 題材設定の理由

生徒は、身近な人々（家族など）の職業について、これまで見聞きして少しずつ働くことについて考え始めている S 子さんの家族の職業（資料）をもとに、働くことの意義や目的、喜びや満足感について考え、職業観や職業観を高めさせる。それらを次時の職業調べの活動につなげ、いろいろな職業の仕事内容を知り、どの職業でも専門的な知識や技能が必要であることや、職場の人やお客さんへの対応など人間関係も大切にしなければならないことに気付かせ、職業に対する見方を深めさせる。

2. 指導のねらい

自分の身近な人々（家族など）の職業や、S 子さんの家族の職業の見方について深めさせ、働くことの意義や目的、喜びや満足感を具体的に考えさせる。

3. 指導計画（全 1 時間）

本 時	・自分の身近な人々（家族など）や S 子さんの家族の職業（資料）をもとに、働くことの意義や目的、喜びや満足感について考え、職業に対する見方を深める。
-----	--

<説話例>
「おいしい、というひと言が励みになっています。」

S 君のお父さんは食品会社で乳製品を中心に新商品の開発をしています。コーヒールに入れるミルク、ソフトクリームやアイスクャンデー、レトルト食品の材料など200種類くらい作っています。今ではその商品をフィリピンやタイなど、東南アジアの方にも輸出しているそうです。その会社に就職した理由は、大学で食品化学の勉強をして卒業後はその専門知識を生かそうと考えたからです。会社では大学での研究より苦労がたくさんあります。厳

しさもあります。例えば、新商品は発売日が決まっています、それまでに新しい商品を開発しなければなりません。期日が迫ってくると徹夜をしてでも仕事をします。また、売れると思って作った自信作でも、人気がなくて会社に損害を与えてしまったこともあります。だから自分が開発した商品が売れているか気になって、自分が開発した商品を買ったお客さんにそっと聞くことがあります。お客さんから「おいしい。」と言われた時、これまでの苦労や疲れがスーと消えていき、仕事へのやる気がわいてくるそうです。

	活動のねらい	活 動 の 内 容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・身近な人々（家族など）の職業について知っていることや考えていることが、発表できる。	◎身近な人々（家族など）の職業について、知っていることや思っていることを発表する。 ・両親とも働いている。 ・帰りが遅い。休みの日も仕事。 ・「今のうちに勉強しなさい。」と言われるが、仕事の方が楽だと思う。	・職業について表面的にしか見られていない実態を明らかにしたい。 ・苦労や生きがい、働く人の思いにも注目して発表できた生徒を位置付ける。	・ P.12①
	課題：働くことの意義や目的、喜びについて考えよう。			
中心の活動	・ S 子さんの家族の職業（資料）をもとに、職業に対する見方を深めることができる。	◎ S 子さんの家族の職業（資料）を読む。 ◎ 母の仕事からどう思ったのか考える。 ・ コミュニケーションをとるために相手と信頼関係を築くことの難しさ。 ・ 相手を思いやる声かけの大切さ。 ・ 人のために働きたいという心構えや目標をもつこと。 ◎ 働くことの意義や目的について交流する。 ・ 親が働くのは、収入を得てわたしたち家族を養うため。 ・ 遊ぶお金が欲しくてアルバイトをする人もいる。 ・ 働くことは、大変なこともあるが、やり切る満足感などを得られるという喜びがあると思う。 ・ 遊ぶお金がほしくてアルバイトをしている人は続かない。 ・ ぼくの父は飲食店で調理師の仕事をしていて、今日はお客さんがとても喜んでくれたという話を、時々うれしそうにぼくたちに話す。苦しいことや辛い時もあるだろうが、喜びや満足感もあるのだと思う。	・ 教師が範読して、必要に応じて説明を付け加える。 ・ 親の職業に対する S 子さんの思いに注目して考えさせる。 ・ どうしてこんなに苦労が多い仕事を続けているのかという疑問から、働く意義や目的、喜びについて考えさせる。 ・ 1-6 の指導内容との関連を考えて、現在の自分が考える意義や目的、働くことの喜びについて考える。	・ P.12②の S 子さんの作文 ・ P.13③
まとめの活動	・ 働くことの目的や喜び、職業に対する見方をまとめることができる。	◎ 「働くことの意義や目的、働くことの喜びとはどんなことか」について、S 子さんの例や身近な人々（家族など）の職業や自分が就きたい職業の例で具体的に考えて、P.13④に記入する。 ◎ P.13の④に記入した内容を発表する。	・ S 子さんや自分の家族の職業を中心に具体的に考えさせる。自分が就きたい職業がはっきりしている場合は、その職業の場合でも考えさせる。	・ P.13④

1-6 働く人たちの考え

1. 題材設定の理由

「身近な人々の職業」の調べ活動を通して、生徒たちは働くことの喜び、楽しさ、苦しさ、困難さを学ぶことができた。こうした学習を通して、生徒たちは働くことが単に生活の糧を得るだけでなく、自分の夢を実現させたり、社会に貢献したりするなどの意味や価値をもっていることに気づくことができたと思われる。

そこで、これまでの調べ学習から得た成果（働くことの意味や価値）について再度確認し、働くことについての自分なりの考えをもたせたい。また、今後の職業選択の指針となることを理解させたい。

2. 指導のねらい

働くことの意味や価値を単に収入を得るという観点からとらえるのではなく、自己実現につながるものであることを理解させる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・身近な人々の職業調べの成果と課題を読み返す。
本時	・働くことの意味や価値を自分なりにまとめることができる。
事後	・「生きる」の記入欄から働くことの意味の理解の様子をつかみ、不十分な生徒に個別指導を行う。

<説話例> 「42度の暑さの中で……」

わたしたちは、働くことは単にお金を得るためだけと思いがちです。ですが、これまでの調査活動を通して、ただ、収入を得るために働いているのではないことが学べたと思います。先生の兄は、夏の暑い時には42度を超える工場の中で働いています。汗は滝のごとく流れ、シャツは何枚もかえなければなりません。そんな兄に、仕事をかえてはどうかと話してみると、兄は「暑いことは

大変だけど、自分が背負っている仕事とその後の仕事の基礎になることなので、責任は重大でやりがいがある。また、汗をいっぱいかいて、仕事を終えた後のビールは本当にうまい。その時の気持ちよさは何とも言えない。」と答えてくれました。その言葉は大変新鮮な響きをもっていました。そこには、大変だけれどやりがいがある世界が見られたように思いました。みなさんただ、収入を得ることを考えるのではなく、働くことの意味を多様にとらえて職業を選択していきたいですね。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・資料の中の登場人物の働く喜びや厳しさを理解できる。	◎資料を読む。 主人公の働くことの喜びや厳しさについてP.16[1]に記入してまとめる。 ◎資料の主人公の働くことの喜びについて交流する。 ・早く一人前になるために親方の仕事の様子を真剣に見て学んでいる。 ・少しでも技術が身についたときの嬉しさ。 ・お客さんの喜ぶ顔を見たときの達成感。 ◎資料の主人公の職場や職場の厳しさについて交流する。 ・お客さんに絶対に満足して頂ける家を建てなければならない。 ・納期に間に合わせるために、夜遅くまで働かなければならない。	・資料から自分の考えを書かせる。	・P.16[1]
	課題：働く人たちの考えをもとに、働くことの意味について考えよう。			
中心的な活動	・身近な人々の職業調べを終えて、働く人たちの考えを交流する。 ・働くことの意味と価値を理解できる。	◎身近な人々の職業調べを終えて、働く人たちの考えを交流する。 ・働くことは、大変。 ・職業に就いても勉強は続くこと。 ・収入を得ることだけが仕事ではないこと。 ・資格を取ることが大切なこと。 ◎働くことの意味と価値を自分なりにまとめP.17[2]に記入する。	・前時に行った「身近な人々の職業調べ」の成果を振り返らせながら、交流させる。 ・学び得た考えを自由に発表させる。 ・これまでに学習したことに基づいて、働くことの本当の意味を考えさせる。	・P.14～15を参考に。 ・P.17[2]
まとめの活動	・様々な観点から職業を考える。	◎働くことの意味と価値について交流する。 ・生活の糧を得るだけでなく、人のために役立つことができている。 ・人に喜んでもらえることが何よりも素晴らしい。 ◎交流する中で、分かったことがあればP.17[2]に書き加える。 ◎興味のある職業を2つ選んで、各観点からその職業を見つめ直してみる。 ◎調査の結果から得たことを交流する。 ・職業によって実現されることは千差万別である。また、働くことは様々な意味があることが分かった。	★の観点の内容が理解しにくい生徒には支援する。 ・働くことを様々な観点から見ることもつながる。 ・今後の職業選択にも生かせるので、大切に扱う。	・P.17★

1-7 自分を知る

自己理解

1. 題材設定の理由

進路を考えるにあたって原点となるのは「自分についてよく知ること」であるが、中学生のこの時期は、自分自身に対する理解・関心が必ずしも十分とはいえない。また、親しい仲間などにも影響を受けやすく、自分を見つめ直す機会をじっくりと持つことが少ない。

そこで、自分の夢や希望を実現するためには「今の自分」を多面的に見つめるとともに、家族や仲間からの助言や忠告に素直に耳を傾けながら、自分像をより明確にすることの必要性に気づかせたい。

そして、自分を正しく理解することでさらに長所を伸ばすとともに、夢や希望の実現に向けて課題を克服する努力をねばり強く継続させたい。

2. 指導のねらい

自分の夢や希望の実現に向けて、自分自身を振り返るとともに、仲間を通して自分像をより明確にし、努力すべき点と努力の仕方を考えることができる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・ 仲間のよさを考える視点となる項目①～④を記入できる小表を用意しておく。
本時	・ 仲間の助言を参考にして自分の特徴についてまとめ、自己理解を深めさせる。
事後	・ 仲間のよさを見つけた事例を通信などで紹介したり、個々の努力目標や具体的な取り組みを掲示する。 ・ 努力目標に向けての取り組みを見届けるとともに、達成に向けて援助する。

<説話例>

「自分のよさを伸ばす。新たなよさを見つける。」
（広い視野で自分を見つめよう。）

学級であなたたちが任されている係活動の取り組みを見てみましょう。昼休み、みんなが外で楽しく運動している時に、給食コンテナの片づけをしている人がいるでしょう。「ぼくたちのグループからは忘れ物をする仲間をつくらない。」と、毎日のように呼びかけをしている人がいるでしょう。また、困っている友達がいたら優しく声をかけて、いっしょになって解決していこうとする人もいます。わたしたちは、集団生活を営む中で知らず知らずのうちに自分を高めています。そして、そうしたあなたのよさを知っているのは、身近にいる仲間たちです。そうした仲間の意見を聞いて、自分のよさをさらに伸ばすとともに、これまで気づかなかった新たなよさにつ

ても考えてみましょう。

もし、人の値打ちをはかる物差しをテストの点数だと思っている人がいるとしたら大きな間違いです。みなさんのまわりには、学級や仲間の向上を願って人知れず頑張っている人や、黙々と掃除に打ち込んでいる人がいます。そうした人たちを見ると、10年後、15年後、どこかの職場で周囲の人たちから信頼されて生き生きと働いているだろうなあと思わずにはいられません。また、だれもがそうしたよさをもっています。仲間や家族などの意見にも耳を傾けて、自分自身について考えてみましょう。自分を正しく理解することで、自分のよさをさらに伸ばすことができます。また、これまで気づかなかった自分に気づくこともできます。一人一人の可能性は無限です。これまでよりほんの少しだけ余分に努力してみるとか、読書の幅を広げるとかの方法で新たな自分のよさを見つけましょう。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・ 自分の特徴を多面的客観的に知ることが、自分をさらに高めるために大切であることが分かる。	◎班の仲間のよさをP.18①に記入する。また、同時にP.19②の自分からみたよさも記入する。 (例) (Aさん) から (Bくん) へ ①趣味・特技 手先が器用で絵がうまい。 ②生活 いつも掃除をいっしょうけんめいやっている。 ③学習 となりの子に分からない所を教えてあげていた。 ④健康 欠席がほとんどない。	・ 考える視点を項目①～④で記入できるようにしておく。 (せめて班内は全員記入できるように配慮する) ・ 仲間のよさを考えさせる。 ①手先の器用さなど 興味・関心のある事柄 ②係活動、清掃活動 ③得意教科、家庭学習 ④出席や健康の様子、体格など クラブ・部活動や活動の様子	・ P.18① P.19②
	課題：仲間の助言を参考にして自分の特徴についてまとめ、自己理解を深めよう。			
中心的な活動	・ 自分を振り返るとともに、仲間を通して自分像を知り、自分のよさ（特徴）が分かる。	◎班交流を行って、仲間に自分について書いてもらったことについて、P.19②の仲間からみたよさの欄にまとめる。 〔班交流〕 班長が司会をして、具体的な事実をもとに班員の「よさ」について出し合う。 ・ 教室で一人にいるとき、よく話しかけてくれるなど、思いやりがある。 ・ 掃除を、いつもいちばん最後までしっかりとやっている。 ・ 忘れ物をしたことがない。生活記録に丁寧に記入して、忘れ物をしないようによく努力している。 〔まとめる〕 班交流で出されたことをもとにまとめる。	・ 仲間のよい点を認め、励ます話し合いができるように配慮する。 ・ 班内で回覧して、記入させる方法も考えられる。 ・ 仲間の成長を願うという考え方を大切にさせ、改めた方がよい事柄があれば出させる。	・ P.19② ・ 自己理解を深める検査の活用 資料編③
まとめの活動	・ 自分像を確認し、さらに努力する点とその方法を考え、実行しようとする決意をもつことができる。	◎仲間の助言から、「自分からみたよさ」と「仲間からみたよさ」とを比較して、共通点、相違点について考える。 ・ P.19③に記入する。 ・ 自分の考えを発表する。 ◎本時のまとめを発表する。	・ 相違点に目を向けさせて、語らせる。 ・ これまで気づかなかった自分のよさについて考えさせる。 ・ 相違点が出てきた原因について考えさせる。	・ P.19③

1-8 自己実現に向けて

進路の計画

1. 題材設定の理由

学年や学期の変わり目などの節目には、個人や班で目標をもたせ、その達成に向けて様々な取り組みを行っている。
また、前回「1-7 自分を知る」では、自分像を明らかにすることにより、自己理解を図るとともに、将来の夢や希望の実現に向けて努力すべき点とその方法について学習してきた。
そこで、さらに自分を伸ばすために、自分の生活や努力の足跡を見つめさせ、問題点を明らかにしてそこから改善策を考えさせていきたい。

2. 指導のねらい

自己の力を信じてねばり強く努力し続けることの大切さに気づき、自分をより成長させるために、今後の努力の方向を見つけることができる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・P.20の①で、1-2③で書いた「努力していること」がどのくらいできたか、自己評価しておく。 ・その自己評価の理由も書けるといい。
本時	・これまでの自分の努力を振り返らせ、さらに自分を伸ばしていくための方法を考え、実行に向けて努力する決意をもたせる。
事後	・P.21③の各個人の努力目標をつかみ、前向きな姿勢を評価していく。

＜説話例1＞

「今の自分は将来の自分へとつながっている」

ロサンゼルス、バンコク、オークランド、東京の子供が自分の将来に対してどんな見通しを持っているかというアンケートの結果を見たことがあります。たとえば、「みんなから好かれる人になる」という質問に対して、「きっと、たぶんそうになれる」と答えた人の割合は、ロス、バンコクの90％に対して東京は58％、「仕事で成功する」という項目では、どの都市でも90％以上であるのに対して、東京は60％、「しあわせな家庭を作る」の項目でも、他の都市では98％、97％、92％に対して東京は75％という結果でした。
東京の子供たちは環境的には恵まれていても、自分に対して自信を失いかけていたり、将来に不安をもっていたりしているのではないかと指摘されていました。今日の学習を機会に、自分をもう一度見つめ直してみるとともに、「将来、こんなことをやってみたい」とか、「自分のよさを生かす仕事を見つける」などの目標をもち、その実現に向けて、今、自分にできることを着実に実行していきましょう。

＜説話例2＞

「ライバルをもとう」

ライバルという言葉の由来を知っていますか？これはリバー、つまり「流れのある川を泳いで渡りきる二人」からきているということを知っています。つまり、ライバルはいろいろなスポーツのように勝ち負けを決める人どうしのことではないし、ましてや、格技のように取っ組み合って相手を負かすことでもありません。激流を泳ぎきると同じ目標に向かって互いに競い合い、励まし合っていく仲間のことをライバルといいます。みなさんも、自分をより高めていくために、よいライバルをもちましょう。

はじめの活動	・これまでの取り組みを振り返ることができる。	◎これまでの自分の生活を振り返り、頑張ってきたことについて発表する。 ・1学期の反省から毎日2時間は家庭学習をしようと決めて努力している。 ・勉強をしようと思ってもなかなか身が入らない。 ・自分の係活動は責任をもって取り組んでいる。 ・忘れ物が多かったので、生活の記録を利用して持ち物点検をしている。まだ、時々忘れることがある。	・具体的な事実をP.20①に集約して、生徒に語らせる。 ・「自分を知る」の学習で、各自がもった自己課題をもとに考えさせる。 ・なかなか頑張ることが続かない要因にも目を付けさせる。 ・継続することの難しさをおさえ、A子さんの手紙の価値を高めさせる。	・生活の記録ノートなど。 ・P.20①												
	課題：目標に向かって努力し続けることの大切さを考えよう。															
中心 的 な 活 動	・自分の可能性を信じ、さらに自分を伸ばすための努力課題をもつことができる。	◎P.20②のA子さんの作文を読んでA子さんの努力の様子や自分と比較したことをまとめる。 ・P.21②の(1)に記入する。 ・自分の取り組みと比較して感想をまとめ、②の(2)に記入する。 ・やろうと決意することはあるが、しばらくすると忘れてしまう。A子さんは自分でそのことに気づいている。 ・努力したり、研究したりすることを楽しんでいるようでうらやましい。	・P.20②のA子さんの作文の中で、継続して取り組んでいることに気づかせる。 ・自己実現のために選択したことは何かを考えさせる。 ・進路選択には、時間がかかることも確認させたい。	・P.20②のA子さんの作文												
まとめの活動	・今後の努力目標を設定し、実現に向けて精いっぱい取り組む決意をもつことができる。	◎自分の夢を実現するため、今後どうすべきかをまとめる。 ・今後の努力目標を考え、P.21③に記入する。 ・班内で発表会を行い、仲間の努力目標の実現に向けてアドバイスする。 (例) <table><tr><td>名前</td><td>努力目標</td><td>班員からのアドバイス</td></tr><tr><td>A君</td><td></td><td></td></tr><tr><td>Bさん</td><td></td><td></td></tr><tr><td>C君</td><td></td><td></td></tr></table> ◎記録者が本時のまとめを発表する。 ◎先生の話聞く。	名前	努力目標	班員からのアドバイス	A君			Bさん			C君			・具体的な努力目標になるように配慮する。 ・願いや目標のない自分でも将来の自分のために必要な努力は何かをまとめさせる。 ・自分の決意を仲間と交流させることで、その実現に向けてより強い意志をもたせる。 ・その職業に直接関係のないような努力であっても進路実現には大切であることを確認する。 ・今の勉強を頑張る ・あいさつ、そうじ、規律ある生活など ※1-7の指導内容との関連を考える。	・P.21③
	名前	努力目標	班員からのアドバイス													
	A君															
Bさん																
C君																

1-9 進路の計画

進路の計画

1. 題材設定の理由

夢や希望を胸に中学へ入学して1年間が過ぎようとしている。この1年間に、その夢や希望が膨らんだりしぼんだりし、中には、将来のことを全く考えないで、進級を迎えている生徒もいる。

その中で、進級を控えて自分の進路をもう一度考え、これからの中学生生活を目的をもったものにする必要がある。そのため、自分の夢や希望を振り返り、その実現のために「進路の計画」を立て、今後の努力目標も明確にさせ、中学生生活を意義あるものにさせたい。

2. 指導のねらい

自分の夢や希望を明確にし、進路の計画を立てる。また、その実現のための努力点を明確にさせ、今後の個人の課題にする。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・ 1-1～8までの進路学習を振り返り、P.22①に記入させておく。
本時	・ 夢や希望は、自分の特性や家族の考えも入れて具体化することが分かり、実現のために努力が必要なが分かる。
事後	・ 具体的な努力の内容を、個別に指導する。 ・ また、学級の取り組みなどに、今日の個人課題を反映させていく。

＜説話例＞

中学校に入学してから1年近く経ちますが、入学した時の気持ちを思い出してこの1時間を通過ごした人もいると思います。1年生になった時、いろいろな「夢や希望」があったと思います。その夢や希望をそのままもち続けている人も、いつの間にか忘れてしまった人もいると思いますが、今日の1時間は、夢を確認して今の自分を見直すのも目的です。自分で「進路の計画」を立てるためには、いろいろな自分の特技や、家族の考えなどいろいろな条件も考えて決めなければならぬことも分かったと思います。友達から、いろいろ参考になることも聞け

たと思います。〇〇さんは自分の目的を、苦手な社会の学習を見直して、ノート作りから始めると書いていましたね。また絵が得意な△△君は、これからいろいろな掲示物を作ること、今まで以上に得意になっていこうとしています。みなさんいろいろ、今やっていくことや、進路の計画で見直す点が分かったと思います。今日から実行できるとよいと思います。

また、この学級全員でやっていく必要があるものも、いくつかありました。これから、班長会や学級会でそのことについて、いろいろな取り組みを計画していきますよ。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	夢や希望の実現には、計画が必要なことが分かる。	◎今までの進路学習を振り返り学んだこと、分かったことについて、意見を交流する。 ・もっと多くの職業について知らなければならない。 ・自分のことをよく理解しないといけないことが分かった。 ・進路計画を立てることが大切であることが分かった。	・「進路の計画」の説明をする。 ・司会者に事前に説明しておく。 ・例をいくつか用意しておいて、例示する。	・例示用の図 ・P.22①
	課題：自分の将来について、夢や希望を確認し、その実現のための進路の計画を立て、仲間と交流しよう。			
中心 的な 活動	自分の進路の計画を、家族の考えや自分の特性なども考慮に入れて、作ることができる。	◎・P.22②『どうしたらなれるだろう。』を読んで、Tさんの「進路の計画」について、疑問や意見を出し合う。 ・デザイナーになれたらよいと思うけど、実際に就職試験が受からなかったら、どうするんだろう。 ・自分だけで決めているようだが、家族などに相談しなくてよいのだろうか。 ・その職業について、自分で調べているのは感心した。 ・こういう計画を作って、高校のことや、その職業について調べていくことが、必要である。 ・自分の希望の職業に就くための道すじを、しっかりと理解するのは、大切なことである。 ◎P.22②1年生の初めの夢や希望は、1－1の④を写させる。そして、今の夢や希望（職業）を記入させる。 ◎P.23③自分の進路計画を記入させる。	・Tさんの計画だけに、焦点がいかないようにする。 ・計画を立てる必要性を確認する。 ・計画を立てる条件を整理する。 ・具体化するための調査の必要性にも、気づかせる。 ・進路の計画が、これからの中学生の基礎・基本になることや、情報収集の選択の基準になることを踏まえながら指導する。 ・机間指導をして、個々の質問に答える。 ・今の夢や希望（職業）を必ず記入するようにする。 ・P.23③には時間をかけ、記入する方法など指導する。	・P.22② ・P.23③ ・資料編 ・県教委HPより
ま と め の 活 動	自分のこれからの努力の方向を明らかにする。	◎班内で交流し、参考になったことや、指摘されたことをP.23④にまとめる。班長または、進路の係などが発表する。 ・その職業について、もう少し調べる必要がある。 ・家族の意見を、しっかりと確認しておいた方がよい。 ・自分の特技や好きな教科以外に、頑張りなければならないことがある。 ・「高校へ行って大学へ行く。」という単純な考えだけでなく、希望する職業に適した高校や大学を調べる必要がある。 ・その職業に合った高校へ行くために、今やっておくことは何かを、はっきりさせる必要がある。	・個人のまとめと同時に、班長にも、班内での話し合いの結果を、発表できるように指導しておく。 ・具体的な方途が明確になるように事後指導をする。 ・不明な点と、具体的な内容が明確になっているものを、比較できるように板書したり、掲示したりする。 ・解決していくものと、実行していくものが、できるだけはっきりするようにする。 ・P.23④で記入できなかった所は、家で記入させ回収し、確認する。	・P.23④

2-1 働くことの目的と意義

1. 題材設定の理由

人の働く目的は、「収入を得て生活するため」と思っている生徒が多い。しかし、職業人としてどう生きるかは、自分にとっても社会にとっても大きな問題である。

「身近な人々の職業」（1－4）では、働く目的として、特に生計の維持に（家族のために）努力する親の姿を見た。

ここでは、働く目的や意義を「生計の維持」だけでなく、「個性の伸長」「社会への貢献」の3つの側面から考えさせ、幅広い視野から自分の進路を検討していけるようにさせたい。

2. 指導のねらい

働くことの意義と目的について考え、働くことの価値を理解させることができる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・学校で；働く目的についての考えを聞く。 ・家庭で；P.24[1]に働く目的についてまとめさせ、目を通して把握しておく。（1－4，資料編[1]をもとにしながら、まとめるよう指示する）
本時	・仲間と語り合ったり、資料を読むことを通して、働く目的の3つの側面（生計の維持・個性の伸長・社会への貢献）について理解する。
事後	・ノートによる個別指導をする。

<説話例>

Ｔくんのお父さんは、浄化センターに勤めてみえます。家庭などからの排水を浄化（きれいに）して、河川に返す仕事です。汚い水がたくさん流れてきて臭いがひどいこともあったり、排水の量やその汚れ具合を見て、機械をいつも調整しなくてはならないため、つらいなあと思うこともあるそうです。しかし、汚い水がきれいになったとき、本当に働いた喜びを感じるそうです。今、新しい機械を設置しているところで、「これでもっと多くの水をきれいにできる」と喜んでいるそうです。「自分たち人間が、汚くて臭い水を出したんだ。誰かがきれいにしなくてはみんなが困る。みんなのためになる仕事だ。」と、お父さんは誇りを持っているそうです。

Ｔくんは、「なぜ川の水は汚れるのか。どうしたらきれいになるのか」ということについて追究しています。追究に役立てようと、夏休みにお父さんの職場を訪問し、仕事の一部を体験しました。Ｔくんは、「汚くて臭くてつらい仕事だけど、汚い水が目の前でどんどんきれいになっていくのを見て、やりがいがあると思った。それに、川をきれいにしたいと空き缶を拾っていることは無駄じゃないと分かった。機械を使うのも好きだし、お父さんの仕事はぼくにあっていいかもしれない。」と思ったそうです。人の生活を支えているという誇りがもてたり、自分の長所を発揮できるような職業は何だろうか。探してみたいですね。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・本時の活動のねらいや活動内容について理解する。	◎1－4や、身近な人々の職業へのインタビュー（資料編[1]）を振り返り「働いてみえる理由」についての意見を交流する。 ・お金を得るため。　・暮らしていくため。 ・家族を養うため。　・生きがいを求めて。 ・社会の一員として、自分の役割を果たすため。 ◎仲間の話を聞いての自分の考えを交流する。	・「生計の維持」「個性の伸長」「社会への貢献」のどの視点を誰がもっているのか、生徒の考えを事前にかんでおく。 ・「働く目的」についての生徒自身の考えを明確にする	・P.24[1]
	課題：身近な人々の話や資料を参考に、何のために働くのか考えてみよう。			
中心的活动	・働く目的には、生計の維持や個性の伸長、社会への貢献などがあり、これらがあいまって生きがいにつながっていることを理解する。	◎働く目的について、家族や身近な人たちに聞いてきたことを交流する。 ＜生計の維持＞ ・家族を養うため。 ・少しでもよい暮らしをするため。 ＜個性の伸長＞ ・働くことが楽しく、やりがいを感じている。 ・自分の趣味や個性が発揮できる。 ＜社会への貢献＞ ・人の役に立ちたいし、仕事に誇りをもっている。 ・社会の一員として義務を果たすため。 ◎P.24[2]を読み、働く目的について考える。 ・自分に課した目標を達成するため。 ・少しでも契約数を伸ばし、同僚や先輩に認めてもらう。	・自分や親の考えと比較させながら聞かせる。 ・取材してきた「働く上での喜びや苦しさ」について、追究編[1]をもとに発表する。 ・生計の維持、個性の伸長、社会への貢献の3つに分けてまとめて板書するとよい。 ・仲間と考えを交流させる。	・1-4，追究編[1] ・P.24[2]
まとめの活動	・働くことの意義や目的について理解を深める。	◎本時の学習についてまとめ、発表する。 ・P.25[3]に記入する。	・働く目的は、人それぞれ違うことやどの目的が高次というわけではないこともおさえる。（生きがいを職業以外にもつ人も増えている事実） ・個性の伸長や社会への貢献が実感できる職業を選ぶことの大切さをおさえる。	・P.25[3] ・説話など

2-2 職業について知る

進路情報

1. 題材設定の理由

大多数の生徒が中学校卒業後の進路として高校への進学を希望しているが、職業そのものについては意外と知らないことが多い。そこで、自分の希望している職業や興味のある職業について学ぶことを通して、職業に対する理解を深めたい。その上でこそ、自分の進路計画をより深く考えることができると思われる。

また、この授業を通して、自分が目指す職業の意識化を図り、職場体験などを通して積極的に職業を知ろうとする姿勢を育てたいと考え、この題材を設定する。

2. 指導のねらい

進路計画をより確かなものとするために、各自が調べたい職業について理解を深め、職場体験や職業調べなどへの意欲を高めることができる。

3. 指導計画（全 1 時間）

事前	・自分が将来なりたい職業や興味ある職業、知っている職業を書いてくる。
本時	・自分が調べたい職業についての知識理解を深め、職業調べに対する意欲を高める。
事後	・職場体験学習や職業調べの意義を明確にし、次の活動に生かす。 ・職業に対する興味の低い生徒について個別指導を行い、職業を考えるきっかけとする。

＜備考＞

P.72・P.73の「職業分類表」について

総務省統計局統計基準部による「日本標準産業分類」と「日本標準職業分類」に基づくもので、国勢調査などに利用されている。

「日本標準職業分類」は最近では平成21年12月に改訂されており、職業変化に基づいて修正が行われている。大分類はP.72・P.73にある11項目に、「分類不能の職業」を加えた計12項目であり、その下に中分類として74項目がある。

＜説話例＞

「調べていくうちに本物になった」

ある学校の修学旅行は体験学習を入れています。東京の養護学校へ行くのです。その生徒はもっと楽しい所へ行きたくて養護学校は希望していませんでした。しかし、人数の制限もあり、養護学校へ行くことになってしまいました。あまり乗り気ではなかったのですが、当然事前学習があり、毎日福祉活動や障害のことなどの調べ学習を続けていきました。最初は垂れ気ではなかったのが、自分の知らない世界を見てどんどん積極的になり、自分から資料を集めたり養護施設に電話して取材したりするようになり、いちばん積極的な姿に変わっていきました。このことがきっかけとなり、この生徒はその後高校を出て福祉関係の仕事に就きたいと強く思うようになり、現在福祉施設の介護士として、ファイト満々で働いています。

みなさんもこの世の中のいろんな職業について調べてみませんか。意外に自分に合った職業が見つかるかもしれませんよ。

はじめの活動

・職業についての理解を深めることの意義について知る。

◎P.26①の資料を読んで、N子さんの受験を前にした不安や後輩への思いについて話し合う。
・夢がないと勉強に身が入らず、無駄な時間を過ごす。
・小さな目標でもいいので、夢をもつことが大切だ。
・今から職業について考えなければいけない。

課題：職業について理解を深め、自分の進路計画に役立てよう。

中心の活動

・職業に対する関心をもつことができる。

・仕事の内容を自分の進路計画と照らし合わせて検討させる。

・職業について知りたいことを書き出して、どんな方法で調べることができるか考えさせる。

◎P.26②の仕事は、どんな職業か記入する。そして、班で話し合い、①～⑮は、どんな職業かうめる。
①会社事務、一般事務員など
②銀行、会計士、税理士など
③セールス、小売店主など
④医師、裁判官、弁護士など
⑤教師、保育士など
⑥小説家、翻訳家、評論家など
⑦作曲家、演奏家など
⑧写真家、まんが家、デザイナーなど
⑨整備工、機械工、大工など
⑩造園業、農業、漁業、林業など
⑪看護師、相談員、介護福祉士など
⑫調理師、理容師、美容師、ホテルマンなど
⑬タレント、俳優、モデルなど
⑭スポーツ選手、インストラクターなど
⑮運転士、航海士、パイロットなど

◎P.26②を参考に自分のなりたい職業、興味のある職業をP.27③(1)に記入して交流し、仲間がさまざまな職業に関心をもっていることを知る。
・デザイナーになりたい。
・なりたい職業は決まっていらないが、パソコン関係の仕事に関心がある。

◎P.27③(1)の自分のなりたい職業、興味のある職業は、資料編③の自分の特性を参考に自己分析する。

◎資料編③の分析結果などからP.27③(2)を考える。

◎今後の職業調べに向けて、知りたいことや相談したいことを考えP.27④に記入し、職業調べにどんな方法があるか考えさせる。

まとめの活動

・将来の職業について深く考えている生徒を紹介し、職業調べに対する意欲を高める。

◎積極的に職業調べをしたいと思っている生徒を紹介し、職業調べの方法についてまとめる。
・私は子供が好きなので保育さんになりたいと小学校のころから考えています。ですから必要な資格や免許については知っていますが、私に本当にできる仕事かどうか不安なので、ぜひ幼稚園で体験学習をしたいと考えています。

・必要に応じて教師の補足説明を行う。

・資料編③を前もって行ったり、もう1時間設定して自己分析を行う。

・特性が判断できない生徒には自己理解の大切さを確認する。

・仲間の考えに共感させるとともに、進路計画をより深く考えるために職業調べが必要であることを知らせる。
・先輩や身近な人に聞く。
・図書館やインターネットでいろいろな職業への道を調べる。
・様々な体験実習やイベントに参加する。

資料について確認しておく。

活動の内容

◎P.26②を参考に自分のなりたい職業、興味のある職業をP.27③(1)に記入して交流し、仲間がさまざまな職業に関心をもっていることを知る。
・デザイナーになりたい。
・なりたい職業は決まっていないが、パソコン関係の仕事に関心がある。

指導・援助の留意点

・資料編③を前もって行ったり、もう 1 時間設定して自己分析を行う。

・特性が判断できない生徒には自己理解の大切さを確認する。

資料等

・P.27③(1) 資料編③

活動の内容

◎P.27③(1)の自分のなりたい職業、興味のある職業は、資料編③の自分の特性を参考に自己分析する。

◎資料編③の分析結果などからP.27③(2)を考える。

◎今後の職業調べに向けて、知りたいことや相談したいことを考えP.27④に記入し、職業調べにどんな方法があるか考えさせる。

指導・援助の留意点

・仲間の考えに共感させるとともに、進路計画をより深く考えるために職業調べが必要であることを知らせる。
・先輩や身近な人に聞く。
・図書館やインターネットでいろいろな職業への道を調べる。
・様々な体験実習やイベントに参加する。

資料等

・P.27③(2)

・P.27④

<備考>

P.72・P.73の「職業分類表」について

総務省統計局統計基準部による「日本標準産業分類」と「日本標準職業分類」に基づくもので、国勢調査などにご利用されている。

「日本標準職業分類」は最近では平成 21 年 12 月に改訂されており、職業変化に基づいて修正が行われている。大分類は P.72・P.73 にある 11 項目に、「分類不能の職業」を加えた計 12 項目であり、その下に中分類として 74 項目がある。

<説話例>

「調べていくうちに本物になった」

ある学校の修学旅行は体験学習を入れています。東京の養護学校へ行くのです。その生徒はもっと楽しい所へ行きたくて養護学校は希望していませんでした。しかし、人数の制限もあり、養護学校へ行くことになってしまいました。あまり乗り気ではなかったのですが、当然事前学習があり、毎日福祉活動や障害のことなどの調べ学習を続けていきました。最初は乗り気でなかったのが、自

分の知らない世界を見てどんどん積極的になり、自分から資料を集めたり養護施設に電話して取材したりするようになり、いちばん積極的な姿に変わっていきました。このことがきっかけとなり、この生徒はその後高校を出て福祉関係の仕事に就きたいと強く思うようになり、現在福祉施設の介護士として、ファイト満々で働いています。

みなさんもこの世の中のいろんな職業について調べてみませんか。意外に自分に合った職業が見つかるかもしれませんよ。

2-3 職場体験の計画

進路情報

1. 題材設定の理由

1年生で身近な人々の職業について学習した。また、2-1では、働くことの目的と意義について学習した。しかし、実際に職場を訪問したり、仕事を体験したりすることは少ないと思われる。そこで、実際に自分で職場へ行き、「働く」体験をすることは、今後の進路計画を立てる上で大変参考になると思われる。

この数年、地域の企業の協力を得て、職場体験を計画する学校が増えてきた。また、夏休みの機会を利用して、身近な職場へ行き、体験してすることも可能である。そういった機会を価値あるものとするために、本時を設定した。

2. 指導のねらい

職場体験の意義を理解させ、価値ある職場体験になるように計画を立てさせることができる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・働くことにはどんな苦労や喜びがあるか、事前に考えさせておく。 1年生や2-1で学習したことを思い出させる。
本時	・実際に自分で体験することがいかに価値があるかを理解させ、職場体験に真剣に取り組もうとする意欲を育てる。
事後	・職場体験の具体的な計画を進めていく。事前調査を行う。2-4を利用する。

<説話例>

今までみなさんは、職業・進路についてのいろいろな学習を続けてきました。働くことの喜びや苦労についても、2-1の授業で学習しました。しかし、実際に職場で働いた経験のある人は、ほとんどいないと思います。今回の職場体験は、そんなみなさんに「働く」とはどんなことなのか、少しでも理解を深めてもらうために、多くの人の好意で実施される行事です。この機会を大切に、自分の進路決定の参考となるよう、頑張って実習し

てきてください。実は先生も、教育実習を経験して改めて「先生になりたいな」と決意をしました。ぼんやりと先生はこんな仕事だなと思っていたことと、実際に経験したこととは、かなり差がありました。先輩の先生方の姿や自分が実習したこと、大変な仕事だということややりがいのある仕事だということを実感しました。価値のある職場体験になるよう、頑張りましょう。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
は じ め の 活 動	・今までの働くことについてのとらえ方と、実際との間に違いがあることに気づく。	◎働くことには、どんな喜びや苦労があるか考え、交流する。 ・喜び－お金がもらえる。物が作れる。やりがいがある。お客様に喜んでもらえる。人の役に立つ。 ・苦労－えらい。休みが少ない。休めない。責任がある。 ◎家族の仕事場などで、実際に「働く」という経験をしたことのある生徒がいるか聞き、もしあればその時の感想を発表する。 ・案そうに思っていたけど、すぐえらかった。	・今まで学習してきたこと、2-1で学習したことと関わらせて考えさせる。 ・見学した時の様子や聞いた話を思い起こさせてもよい。必要なら、初めて勤めた時の感想など、教師から補足する。	
	課題：職場体験の意義を考えた上で、価値ある職場体験になるように計画を立てよう。			
中 心 的 な 活 動	・職場体験によって得られる価値について理解することができる。 ・自分は、職場体験にどのように取り組むのか考える。	◎P.28の資料を読んで、I子さんが職場体験で学んだことについてP.29①に記入し、考えを交流する。 ・仕事をするとは、本当にえらい。 ・簡単そうでも、実際にやってみるとすごく大変だ。 ・あいさつやそうじが大切である。 ・仕事をするとは、自分で責任を取らないといけない。 ・毎日、たえまなく仕事があり、何日も何日も続けていく努力が必要だ。 ◎職場体験で、何を学んできたのか、思いをP.29②に記入し交流する。 ・仕事の内容 ・仕事に必要な適性や資格 ・仕事をする時に気をつけていること、工夫していること ・仕事の喜びや楽しさ ・仕事の苦労やつらさ ・勤務時間と休日 ・収入 ・どんな力が求められるのか ◎職場体験で質問したいことをP.29③に記入して班で交流し、まとめる。 ◎職場体験をするうえでの約束やマナーをP.29④で記入し、交流し、まとめる。 ・時間を守り、あいさつもきちんとする。 ・ふざけないで真剣に取り組む。 ・まわりの人の迷惑にならないように、一生懸命仕事をする。 ・アルバイトではなく、好意で体験させてもらっている、会社の人に感謝の気持ちをもつ。 ・社会の一員として行動し、接客態度に注意する。	・実際に体験したからこそ理解できることであることに気づかせる。 ・一人一人がどんなことを学んできたのか、進路希望と関連させて明確にさせる。 ・多くの人の好意で実施されることを確認し、感謝の気持ちをもって臨むよう指導する。	・P.28資料「多くのことを学んだ職場体験学習」 ・P.29① ・P.29② ・P.29③ ・P.29④
ま と め の 活 動	・価値ある職場体験にするための決意をする。	◎自分は職場体験にどのような決意で臨むのか、明確にする。 ・自分の進路決定の参考とするために、真剣に参加する。 ・働くとはどんなことなのか、しっかり学んでくる。	・職場体験をさせていただく職場に失礼のないように、授業展開P.65の「職場体験資料」の電話・あいさつ・手紙・言葉づかいの例を参照する。	・授業展開P.65の「職場体験資料」参照

2-4 職場体験の交流

進路情報

1. 題材設定の理由

今までほとんど職業に対する経験のない生徒が、職場訪問で働く人たちに触れ、また働く経験をしてきた。この職場訪問を通して、今まで進路学習で学んできた職業観がより確かなものになると思われる。

本時では、一人一人がそれぞれ得てきた成果を学級で交流させ、自分が体験していない職場についても理解ができるようにし、これからの進路選択に生かしていけるようにする。

2. 指導のねらい

職場訪問の体験を交流させ、様々な職業に対する理解を深めさせることができる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・職場体験の記録（P.30の□）に記入させ、各職場あるいは班で分担を決め、発表の準備をさせておく。
本時	・代表者の発表を聞き、自分が体験した職場以外の職場についても理解を深めさせる。
事後	・自分のこれからの努力目標をはっきりさせ、見通しのある生活をさせる。

情報交換の場の工夫

体験した内容や感想などをまとめ、写真なども使って、タブレットを利用したレポート作成に取り組み、必要に応じて交流の際に活用する。

◇ポスターセッション

体育館などに職場ごとにたくさんの掲示・発表コーナーを作り、班ごとに順番で5分、10分と時間を決めた中で発表を繰り返す。発表の番でない班の生徒は興味のあるコーナーを見てまわる。

◇パネルディスカッション

代表を選び、「つらかった、こんな体験」「いちばんうれしかったこと」「体験をどう生かしていくか」などのテーマで発表や討論を行なう。

◇職場体験ホームページをつくる

体験した内容や感想などをまとめ、写真なども使ってホームページをつくっておくと、いつでも、だれでも見たいときに見られるので便利。

<説話例>

今回の職場体験で、「働く」ということについて今までより理解が深くなったと思います。しかし、まだまだ社会の中には多くの仕事があり、また、短期で体験するのと、毎日働くのでは大きな違いがあります。これから進路の学習を続け、自分に合った進路を見つけられるよう努力しましょう。

また、働くことの大変さが少しは分かったと思います。そして、働くということは、やりがい、必要とする力、

相手に喜んでもらえるなど、様々な要素が含まれていることが分かったと思います。決して単純なことではないのです。また、働くことには、喜びや悲しみ、充実感・満足感などもあるのです。最後に、君たちの生活は毎日働いていらっしゃる家族の方に支えられているのです。感謝の気持ちをもつと同時に、自分たちが今やれることを一生懸命に取り組んでいくことで応えていきたいですね。毎日働いていらっしゃる家族の方に感謝の気持ちをもつようにしましょう。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
は じ め の 活 動	・一人一人が職場体験で学んできたことを確認する。	◎職場体験をして学んだこと、感じたことをP.31[2][3]に記入し、交流する。 ・誰もが真剣に仕事に取り組んでいた。 ・よい製品を作るんだという熱気があった。 ・職場の人たちが、助け合って働いていた。 ・働くということは、本当に大変だ。	・事前に職場体験の記録が記入されているか、確かめておく。 ・グループで職場体験を行った場合は、グループで分担させておく。	・P.31[2][3]
	課題：職場体験で学んだことを交流して、様々な職業に対する理解を深めよう。			
中 心 的 な 活 動	・様々な職業について、理解を深める。	◎体験してきた職場について、代表者が ・仕事の内容 ・仕事に必要な適性や資格 ・仕事をするときに気をつけていること、工夫していること ・仕事の喜びや楽しさ ・仕事の苦労やつらさ ・勤務時間と休日 ・収入 等について発表し、それを聞いて学んだこと、感じたことを記入する。 ・どの仕事も大変だ。 ・いろいろな仕事があるが、まだまだよく知らない。 ・自分の家族も、こんなに苦労して働いているのだな。 ・資格が必要な職業がたくさんある。 ◎友達の実験発表を聞いて、学んだことと感じたこととをP.31[4]に記入しとめる。	・代表者には、きちんと発表の原稿を用意させ、簡潔にわかりやすく話ができるようにしておく。 ・質疑応答の時間を設ける。 ・体験して得たものを全員に発表させるようにする。	・タブレット等でまとめたものを用意させる。 ・個人のまとめとしてレポートをつくらせる。 (別時間) ・授業展開P.66の「職場体験学習報告レポート」参照
ま と め の 活 動	・自分の進路に向けて、これから生かしていけそうなことをまとめる。	◎職場体験とその交流会を終えて、これからの生活や進路選択に生かしていきたいことをP.31[5]に記入し、交流する。 ・どんなことにも真剣に取り組みたい。 ・一生懸命に働いている家族に感謝したい。 ・職業や仕事の内容について、もっと細かく調べていきたい。 ・毎日の一つ一つの授業を大切にしたい。	・できるだけ具体的に書かせる。 ・次の「資格の必要な職業」にも、つながるようなまとめをする。	・P.31[5]

2-5 資格の必要な職業		進路情報	
1. 題材設定の理由		はじめの活動	
生徒たちは、仕事によっては資格が必要であることを漠然と知っている。しかし、具体的な職種や必要な資格、その資格を得る条件や苦勞といった点まで知っている者は少ない。そこで本時では、いくつかの職種について、資格とその取得のための条件や苦勞を明らかにし、さらに、自分のめざす職業に必要な資格や免許を調べさせる中で、資格の必要な職業の理解を深めさせ、自分の進路の見通しをより具体的にもたせたい。			
職業をもちながら資格取得のために努力する姿は、続く「学ぶことの目的と意義（2－6）」での自己実現につながっていくと考える。また、ここでの学習は今後の上級学校の学習を意欲的に進める下地になるものであろう。			
2. 指導のねらい		中心的活动	
職業によって資格の必要なものがあることを具体的に分からせ、資格や免許の取得を含めた自らの進路計画の必要性を理解させることができる。			
3. 指導計画（全1時間）			
本 時	・ 資格の必要な職業について理解を深め、資格調べの意欲を養う。	まとめの活動	
事 後	・ 自分の就きたい職業について調べた必要な資格の内容やコース表を交流し、理解を広げる。		
＜説話例＞ 自分の職業の可能性を広げるために、努力・苦勞して資格を取得した先輩の事例や、将来希望する職業で必要な資格取得を考えて進路計画を立案した事例などを、学習のまとめの説話として話したい。			
＜建築士の例＞ 2級建築士になるには、学歴に応じた年数の実務経験を積んだことを受験資格とし、年1回学科試験（7月）と実技試験（9月）を分けて行う。延べ面積が500平方メートル以下の建築物の設計から工事の管理を一貫して行うことができる。それ以上の建築物は1級建築士の資格が必要。試験の合格率は2級建築士で22％程度、1級建築士の場合は8％程度である。		2級建築士になるには、学歴に応じた年数の実務経験を積んだことを受験資格とし、年1回学科試験（7月）と実技試験（9月）を分けて行う。延べ面積が500平方メートル以下の建築物の設計から工事の管理を一貫して行うことができる。それ以上の建築物は1級建築士の資格が必要。試験の合格率は2級建築士で22％程度、1級建築士の場合は8％程度である。	
Sさんは花屋に勤めていましたが、自分の力が本当に通用するものなのか疑問をもっていました。そこで、フラワーデザイナーの検定試験を受けてみることにしたのです。3級からスタートした資格も、講習会を受けて2級の資格を取得しました。今ではパーティーなどのテーブル装飾など、胸を張って仕事を続けています。		資格試験には、直接採用に関わる資格以外に個人の能力のレベルを判定する検定試験も存在する。また、国家試験やそれに準じた公的な検定制度以外に、民間で行う検定も数多い。そうした中には公的な資格に似せた営利を目的とした悪質なものもあるので、十分な注意を払うことが必要といえる。	
・ 資格の必要な職業があることを知り、資格について興味をもつことができる。		◎先輩の手紙を読み、感想を交流する。 ・ 公認会計士という資格をとるには、何度も試験に合格しないとれないんだ。 ・ 公認会計士になるには様々な道すじがあるんだ。 ・ 資格を取るのは大変だ。	
・ 資格の必要な理由が理解できる。		◎なぜ職業によっては資格が必要なのかP.32①に記し、交流する。 ・ 専門的な知識がないと困る仕事だから。 ・ よいものを作るには技術が必要だから。 ・ 命に関わる仕事だから。 ◎自分がめざしている職業についてどんな資格が必要か、または、あった方がよいと思われる資格を考え、交流する。 ・ 自分は……になりたいので、……という資格が必要だ。 ・ 自分は……になりたいが、どんな資格が必要か分からない。	
・ 自分が就きたい職業について資格調べを行うことができる。		◎自分が希望したり、興味をもっていたりする職業について、必要な資格や免許とそれを取得するためのコース表を作成する。 ・ P.33②に記入する。 ・ 興味をもっている職業について、どんな資格や免許が必要なのか調べる。 ・ 資格の取得にはどんな道すじがあるのか調べ、記入する。	
・ 自分の進路計画を資格取得の面から見直すことができる。		◎現在、社会には数多くの資格試験や検定制がある。どんな資格や免許があるのか調べ、P.33③に記入する。	
		・ 先輩の進路の道すじを確認させる。 ・ 職業には資格が必要なものがあることを理解させる。 ・ 資格を取得することの大変さを理解させる。	
		・ 健康や安全を守る職業、専門的知識や技術を必要とする職業では、資格や免許を必要とすることを理解させる。このとき、事業所に一人以上もっていなければならない資格や、もっていることで能力を評価される資格などがあることに気づかせる。 ・ 資格が必要条件でない場合でも、あった方がよい資格や、職業に就く過程で有利な資格・自分を高めるために必要な資格について調べる。 ・ 自分がめざしている職業について、必要とする資格の内容を調べることが、これからの進路計画の立案に不可欠であることを理解させる。 ・ 現在の進路計画が、資格の取得が可能なものか調べさせる。	
		・ P.32① ・ P.33資料「資格や免許が必要な職業例」 ・ 資料編P.74～77参照	
		・ 資料編P.74～77参照 ・ P.33② ・ 資格取得のガイドブックが準備できるとよい。	
		・ P.33②に記入した、自分が希望したり、興味をもったりした職業に就くために、資格や免許の取得が必要であることに、気づかせる。	

2-6 学ぶことの目的と意義

1. 題材設定の理由

学習の目的を『世間的に評判のよい高校に進学するため』と考え、「テストの点数を上げる」「入試に合格する」といった目先の目的にとらわれてしまうことが多い。

生徒について最も問題を感じるのは、目標に自分の考えや意志が希薄な時である。これでは主体的に自分の進路を切り開いていく生き方にはほど遠い。しかし、生徒にとっては具体的に、「こんな生き方をするのだ」「このような目的をもって生きていくのだ」というイメージをもつことはとても難しい。

そこで、本時においては、学ぶことの目的と意義を将来の夢や希望の実現と関わせ考えさせたい。授業にあたっては、学級の実態を調査し、そこから自分の姿を振り返ることから導入したい。この時、生徒に事前調査などを任せると、学習をつくっていく意識がより高まるだろう。

2. 指導のねらい

学ぶことの目的や意義について考えさせ、自分なりの考えを持たせて、日常の生活を振り返らせながら自己実現をめざして努力を継続していこうとする態度を育てることができる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・「学習の目的」についてアンケート調査を行う。
本時	・アンケート調査や資料から、学ぶ目的や意義について考える。
事後	・学習のまとめを記入させる。

<説話例>

わたしたちの町の公民館では、毎晩様々な学習講座が開かれています。その内容は、茶道や華道、書道、絵画、編み物など、実に多くの種類に渡っています。そこで学ぶ人は、みな地元の方なのですが、こんなにも多くの方が学んでいるのかと驚くほどです。その一人に、わたしたちの学校の校務員のAさんもいらっしゃいます。Aさんは忙しい毎日の中から、週に一度ですが「漢詩」を学んでいるのです。わたしは、そんなAさんに「夜の学習も大変ですね。一体、どうして、漢詩を学習しようと思ったのですか」と話しかけました。すると、こんな答えが返ってきました。「わたしは、学生の頃から、詩が大好

きだったんですよ。それで、公民館の講座をのぞいてみたら、漢詩をやってましてね。いい響きで心が引かれたのですよ。この年になって、勉強するなんておかしいかもしれないけれど、新しいことを知るといのは、本当に楽しいことですね。来年の春には、仲間と、漢詩に出てくる中国の揚子江を見に行こうと思っていますよ」と。わたしは、Aさんが楽しそうに話してくださる姿を見ながら「こんなふうに、いつまでも学ぶということに喜びを感じて生きられたら、何てすばらしいのだろう」と強いあこがれを感じました。Aさんが、人生を自分の手で作り出しているように思えたからです。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	学習する目的について、学級の仲間の考えを知る。	◎事前に調査した「あなたは何のために勉強しているのか」について、どう思ったかを交流する。 ・P.34㊦を活用する。 ・仕方がないからやっている。 ・やらされているという意識の子が多い。 ・目的をもって取り組んでいる子もいる。	・結果を予想させるなど、意欲をもって授業に入っているよう工夫する。 ・「学ぶこと」の意味を考えさせるような問い返しをする。	・期末テストの前や授業の様子を問題視しているときなど、必然を感じながら答えられる時期にアンケートを行う。 ・P.34㊦
課題：「なぜ学ぶのか」ということに自分なりの考えをもち、生活を振り返ろう。				
中心的活动	・なぜ学習するのかという課題について自分の考えをはっきりとさせ、仲間と意見を交流する。 ・「学ぶ」ことの意味を考える。	◎作文「なぜ勉強するのだろうか」を読み、Y男さんの考え方について自分の意見をP.35㊧に記入し、仲間と交流する。 ・Y男さんと同じく何のために勉強するかよくわからなかった。 ・今の自分にもどのような可能性が隠れているか分からない。 ・自分の力を伸ばせるだけ伸ばしておくことが将来の自分を支えることになるかもしれない。 ・まずは目の前のテストに向けて全力で取り組むことが大切そうだ。 ◎『生き方』を学ぶ進路学習の立場から、「学ぶこと」の意味について意見を交流する。 ・点数を取ることだけが学ぶことではない。 ・体験すること全てが「学び」なんだ。 ・自分のよさを伸ばすことも学ぶことになるんだ。 ・教科で学ぶことは、ただ単に点数を上げるためとか、技術を向上させるためだけではないんだ。	・仲間の意見を「仲間の考えでなるほどと思ったこと」の欄にメモさせるようにし、ともに考える姿勢を大切にすること。 ・同じ内容でも、できるだけ多くの生徒に発言させるようにすること。 ・従兄弟の「だから、中学校のうちはすべての活動において全力で努力するんだよ。」という部分をより具体的に捉えられるようにすること。 ・学校で学ぶことだけに考えがいかないようにすること。 ・さまざまな場面を思い描かせ、いろんな場面で「学ぶ」ことができることをおさえる。 ・生活ノートに「～という体験から～ということを学んだ」とか「仲間の～という姿に、～を学んだ」という内容があれば、それを資料として使うことができる。	・P.34㊦ ・P.35㊧
まとめの活動	・自己実現に向かって学習する生き方のすばらしさに気づき、学ぶことに自分の意義を見い出す。	◎話し合いの結果をまとめ、教師の説話等を参考に、今後の生活に向けて自分の考えをP.35㊨にまとめ、仲間を発表する。 ・勉強は学校でやるものだと思っていたが、どんな場面でも学べることが分かった。 ・人として学ぶことがいろいろあることが分かった。	・教師の説話は「学ぶ」ことを広げられるような内容を用意できるとよい。 ・話し合いの結果を、学級新聞等で取り上げ、本時の学習が日常生活に生きるような指導を行いたい。	・P.35㊨

2-7 高等学校と専修学校の種類と特色

進路情報

1. 題材設定の理由

2年生のこの時期は、希望の職業に就くまでのコースや上級学校の種類や内容についての理解は、まだ十分とは言えない。

そこで、上級学校の特色や内容についての理解を確かなものにする中で、進路に対する視野を拡大するとともに、進路への関心を高めたい。

例えば高等学校といっても様々な系統があり、それによって学習内容も多様である。例えば、工業系といっても多くの科があり、学習内容から取得できる資格、卒業後の進路まで、科による違いが大きい。生徒が進路を選択していくにあたって、これらの情報をつかんだ上で、進学することが望ましいのは言うまでもない。本時で得られる情報はわずかだが、この学習を機会に自分から調べていこうとする動機付けになればよいと考える。

2. 指導のねらい

身近な高等学校や専修学校などの種類と特色、学科の特徴について理解させ、その学習内容などについて自ら調べていこうとする意欲をもたせることで、広い視野に立って進路選択する力を育てることができる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・身近にある高等学校や専修学校で、各自が興味をもっている系統や学科を調べておく。
本時	・中学卒業後に進むことのできる学校、高等学校等の学習内容について理解する。
事後	・今後の進路情報を集める上で、生徒に応じたアドバイスを与える。また、各自高等学校等の調査を続ける。

<説話例>

—専門科高等学校に進学した生徒の作文例—

高校に入学して2カ月が過ぎた今、わたしは商業科目に追われながらも、中学校とは一味違った高校生活を送っています。去年の今頃、将来のことはただ漠然と普通科に進んで大学に行こうと考えていました。10月の高校1日入学で商業高校に行きました。ワープロの実習をわたしたちも一緒に教えてもらいました。その時の先輩たちはとても楽しそうに生き生きと活動していました。そして、わたしたちにも親切に教えてくださいました。わたしは普通科高校だけが高校生活ではないなあ、商業高校もおもしろそうだと思うようになりました。その後、学習内容などを調べてみると、自分がやっていきたいことと合っていることがわかりました。両親や担任の先生とも相談して、近くの商業高校の情報処理科を受験することにしました。合格して校章をもらった時は、「今日から商業高校の生徒なんだな」とうれしさがこみあげてき

ました。授業は普通科目の他に簿記、商業経済、計算事務などの商業科目を学習しています。このような科目があることは知ってはいましたが、いざやってみて思った以上に難しく正確さを要求されます。普通科目の分からなかった時と違って、商業科目の分からない時はすごく焦ります。けれど、分かった時のうれしさというのは普通科目よりもやる気を起こしてくれます。また、商業だから計算とかワープロといった事務的な実習だけかと思っていたら、それだけでなく社会に出てからも通用する言葉遣い、生活態度など人間性も学ぶことが分かりました。だから社会に出てからのことを考えると、とてもためになります。友達もたくさんでき、勉強を教え合ったりいろいろと話し合ったり、とても楽しい生活を送っています。わたしは今、この学校を選んで本当によかったと思います。将来はコンピューターを使う仕事に就きたいと考えているので、勉強を一生懸命やって資格をたくさん取っていききたいと思います。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・学校の種類について確認する。 ・本時のねらいを知る。 ・中学校卒業後に進むことのできる学校には、何種類もあり、それぞれに特色のあることを理解する。	◎P.36①の「中学校卒業後に進むことのできる学校」の種類について確認する。 課題：身近な高等学校や専修学校などの特色や学科について調べよう。 ◎P.36①の図で確認した学校にはそれぞれ特色があり、学ぶ事柄や目的に応じていることを知る。 定時制…授業開始が夕方からで、働きながら学ぶことができる。単位制となり、特色ある学校や通信制との併用で3年で卒業できるようになった。 通信制…自宅で学習し、レポート提出で単位を取得する。 単位制…学年制と異なり、取得単位を累積加算して卒業する。 専修学校…職業もしくは、実生活に必要な能力を育成することを目的とした学校で、①専門課程 ②高等課程 ③一般課程がある。	・図を模造紙などにあらかじめ転写しておき説明しやすくする。 ・教師が地域の学校を取り上げながら具体的に説明をする。パンフレット等の資料を準備して興味をもって生徒が話を聞けるようにする。	・P.36①の図 ・各学校の案内 ・巻末資料を利用して学校の種類を確認する。 ・地域の地図を拡大したもの
中心的活动	・高等学校などにどのような学科や学習内容があるかを知ることが、進路選択の上で大切であることが分かる。	◎自分が興味をもっている学科の学習内容について調べる。 ・P.37②に記入する。 ・巻末資料や高校のパンフレットなどを参考にして、学習内容、取れる資格、おもな進路先を調べる。	・自分が興味をもっている学科をいくつか選び、調べさせる。ここで具体的な例を挙げてもらいたい。 ・数人に発表させ、その多様性について意識できるようにまとめ方を示す。	・P.37②
まとめの活動	・学科や学習内容などについて知ることが、進路選択にとって重要であることが分かる。	◎学校への進学には、意外に多くのコースがあることを実感としてつかみ、広い視野に立った進路選択のために、多くの情報が必要であることを理解する。 ◎調べたことから、分かったことやもっと知りたいことをP.37③に記入する。 ・自分が知らなかった学科のことが分かった。 ・学習内容などについてよく調べておくことは大切なんだ。	・今後の進路選択に向けて主体的な情報収集につながるようなまとめをするよう心がける。 ・生徒の記述をいくつか紹介する。 ・学習内容について正しく知っておくことが、これからの進路選択に重要であることを知らせる。	・P.37③

2-9 私の進路計画		進路の計画							
1. 題材設定の理由 前時（2－8）では、2年生で学習したことを総合して、自分の進路に対する考え方をまとめる学習を行った。それを受けて、本時は中学を卒業してからの自分の進路計画を立てさせたいと考えて、この題材を設定した。進路計画については1年生でも学習しているが、1年間の学習によってさらに広く、深く、意識付けがされたと考えられる。 そこで2年生の進路学習のまとめとして、進路計画を立て、1年生での考えと比較するとともに、3年生での生活・学習に生かしていきたいと考えている。そのために2年生の進路学習の出口として、「3年生に向かってどのようなことを頑張っていけばよいと思いますか」という題で作文を書かせたい。自分の進路を見据えた上で、努力するところを明らかにしていくことは大切であると考える。									
2. 指導のねらい 中学卒業後の自分の進路計画を年齢を追って具体的に立てていくことによって、見通しをもつとともに、3年生に向けての自分の思いを作文に書かせ、将来の決意を持たせることができる。									
3. 指導計画（全1時間） <table><tr><td>事前</td><td>・2－8を振り返り、自分の考えを確認する。</td></tr><tr><td>本時</td><td>・自分の進路計画を、年齢を追って具体的に立てる。 ・3年生に向けての自分の考えを作文に書く。</td></tr><tr><td>事後</td><td>・保護者の方に進路計画や3年生に向けての作文を見ていただき、言葉をP.41③に書いていただく。</td></tr></table>				事前	・2－8を振り返り、自分の考えを確認する。	本時	・自分の進路計画を、年齢を追って具体的に立てる。 ・3年生に向けての自分の考えを作文に書く。	事後	・保護者の方に進路計画や3年生に向けての作文を見ていただき、言葉をP.41③に書いていただく。
事前	・2－8を振り返り、自分の考えを確認する。								
本時	・自分の進路計画を、年齢を追って具体的に立てる。 ・3年生に向けての自分の考えを作文に書く。								
事後	・保護者の方に進路計画や3年生に向けての作文を見ていただき、言葉をP.41③に書いていただく。								
＜説話例＞ わたしが大学生の時のことです。サークルに新入生が入ってきました。ところがその新入生はけっこうな歳だったんです。よく聞いてみると28歳で、高校を出て就職しある仕事をしておられたのですが、どうしても高校の先生になりたいという思いが捨てきれず、会社を辞めて大学を受験したのだそうです。その人は受験に際して相当勉強されたようですし、大学の講義を受ける時も真剣そのものでした。ここで何が言いたいかというと、今考えている進路が絶対的なものではないということです。		ある人は今、野球選手になろうと計画を立てているけれど、来年になったら変わっているかもしれない。先ほど話した人のように、途中で大きく進路変更する人だっている。同じ中学の先生だって歩んできた道はいろいろです。しかし、こうして進路について考えておくことは決して無駄にはなりません。考えてきたことを応用して、新たな方向に見通しをもって進めばいいからです。その人は教員採用試験にも合格して、現在は高校の先生として教壇に立っています。							

は じ め の 活 動	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
	・中学校を卒業してから将来考えている職業に就くまでには、いろいろなコースがあることが理解できる。	◎中学を卒業してから職業に就くまでには、どんなコースがあるかを発表する。 中学→全日制・定時制高校→大学・短大→就職 中学→全日制・定時制高校→就職 中学→専修学校→就職 中学→就職	・はじめは生徒に知っているコースを発表させる。 ・資料編（P.75～78）について補足・説明する。	・資料編 P.75～78 参照
	課題：中学卒業後の自分の進路計画を立ててみよう。			
中 心 的 な 活 動	・モデルコースを参考にして、自分の進路計画を立てることができる。	◎自分がめざすコースは、年齢で見たととき、どのようになるかを知る。 ◎自分の進路計画をP.40①に記入する。 ・「看護師」「建築士」の例を参考にして自分の進路計画を書き込んでいく。 ＜調理師を希望する生徒の例＞ 中学卒業→調理専門学校に進み技術を身に付けるとともに調理師の資格を取得する→中華料理店に就職し腕を上げる→自分の店をもつ ＜自動車整備士を希望する生徒の例＞ 中学卒業→工業高校の機械科に進み、機械に関する知識と技術を身に付ける→自動車整備工場に就職し、自動車整備の仕事しながら3級自動車整備士の資格を取るために学習する→3級自動車整備士の資格を取得後は、より専門的な知識や技術を身に付け、3年後には2級自動車整備士の試験を受験し、資格を取得する→車に乗る人が安全、快適に運転できるように自動車整備を行う	・資料編を使って、コースとその時の年齢について説明する。たとえば、高校卒業だと18歳などの目安がわかるようにする。職業に就いてからも、何を目標に頑張りたいのか、どんな思いで仕事をしていきたいのかを書かせる。 ・はじめに書き方について「看護師」の例を使って説明していく。 ・先に学習したコースと、それをとった時の年齢を考えて記入すること。 ・どういう理由でそこに進むのか、またそこで何を目的として学んでいくつもりなのかを、例にならって記入すること。 ・二つ以上ある時は分けて書くなどすること。	・P.40①
	まとめの活動	・「夢に向かって」の作文を書き、自分の決意をもつことができる。	◎「夢に向かって」の作文をP.41②に書く。 ・自分が計画した進路をとっていくために今の自分を振り返り、どんな点がよくなってきたか、またどんな点において努力が必要であるかなどを考えて書く。 ◎P.39③や、P.40①の進路計画を見せ、保護者の方にご意見を書いていただき、提出できるように生徒に伝えて終了する。	・静かに自分を振り返らせ、書かせるようにする。 ・説話をする。

3-1 進路選択の諸条件

進路の計画

1. 題材設定の理由

いよいよ進路決定の年である。今まではほとんどの生徒が同じような道を歩めばよかったのが、卒業後は一人一人違った道を進まなくてはいけない。「進路の選択をしなければならなかった。」3年生の生徒の誰もがそんな自覚をもっているに違いない。そして、学習に部活動に頑張らなければならないと思っている。

しかし生徒たちの中には、目先のことにとらわれている者、将来について漠然とした意識であったりする者、また周囲の言葉に流されている者もいる。

そこで、先輩の進路選択の具体的な事例を通して、改めて進路選択の難しさを理解させ、進路選択のための諸条件を明確にし、これからの進路選択および決定の日まで何をしなければならないのかをしっかりとつかませて、自分の進路希望、進路設計を見つめ直させたい。

2. 指導のねらい

進路選択のための必要な条件を具体的に理解させ、自分自身の進路設計を見直し、改善点や努力点を明らかにすることができる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・ 現段階での進路希望を考えさせておく。 ・ 進路希望調査の実施。
本時	・ 進路選択のために必要な条件を具体的に理解することができ、自分にとって必要なことを再認識する。
事後	・ 記入が不十分な生徒には、個別相談を実施する。

<説話例>

N君は、本来普通科高校希望でした。でも、友達が高専を受けるということで自分も受けてみました。元来美術が得意で、建築にも興味があったこともその理由でした。先生からは厳しいだろうと言われていましたが、見事に合格しました。先生は「本当に高専へ行くのか、普通科希望じゃなかったのか。」と心配しましたが、N君は合格のうれしさで行くことに決めました。入学して学校生活（勉強）が始まりました。高専は高校とは違って

4・5年生がいてとても自由な雰囲気だったので、最初はとても楽しかったのですが、次第に勉強は難しくなり、単位も落とし、ついには留年をしてしまいました。もうあとはありません。でも、N君にはもはややりきりだけの気力は残っていませんでした。結局退学し、現在は大検をめざして勉強しています。彼にとって、高専に合格したことはよかったのでしょうか。N君は、高専の中身を十分に調べることなく受験したことに問題があったのです。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・ 同年代の仲間の進路希望の実態を知ることができる。	◎進路希望調査の結果を見て、気づいたことを発表する。 資料①から ・就職者が少なくなってきた。 ・進学する人が多くなっている。 ・専門学校へ行く人もいる。 資料②から ・進学希望者が多い。 ・普通科希望の人が多い。	・ 過去3年間の進路先のデータまたは、昨年の進路状況から、先輩たちの動向を考えさせる。 ・ 現段階の自分たちの学級の仲間の進路希望から、自分たちの動向を考えさせる。	・ 資料① 「先輩たちの進路状況」を準備する ・ 資料② 「進路希望調査のまとめ」を準備する
	課題：進路を選択するために必要な条件を考え、自分自身の今後の努力点、改善点をまとめよう。			
中心的活动	・ Rさんの手紙を読んで、どうすべきだったか理解し、進路選択の条件を考えることができる。	◎今、自分がどんな条件で進路先を決めようとしているのかを交流する。 ・ 自分の学力（テストの点数） ・ 通学時間 ・ 通学距離 ・ 自分の興味・関心 ・ 高校卒業後の進路（大学進学など） ◎Rさんはどんなことで悩んでいるのかを交流する。 ・ 今通っている学校をやめるべきか続けるべきか。 ・ 自分が予想していた学習内容と、実際に学習する内容に大きな違いがあること。 ・ 工業高校の学習内容や生活がRさんの思っていたこととあまりにかけはなれていて、自分の進路選択に対する甘さを知ったこと。 ・ 工業高校が自分に合わないのではないかということ。 ◎現在の高校退学者数やその理由を示し、Rさんのような進路選択で行きづまってしまう生徒が多いことを知る。 ◎Rさんは進路を選択する時、どうするべきだったかを考え、P.42①に記入する。 ・ 進路先の高校のことを調べるべきだった。 ・ 学習する内容をもっと調べるべきだった。 ・ 自分の性格や適性をもっと知るべきだった。 ・ 仕事の環境をもっと調べるべきだった。 ◎進路選択の条件は、何が大切なのかをP.43②に記入し交流する。 ・ 自己理解（適性・能力・興味・関心） ・ 目的との合致 ・ 進路情報（進路先の情報） ・ 進路計画に合っているか。	・ 資料編P.92を見せ、今の現状を確認させる。 ・ Rさんがどうするべきだったかを参考にまとめさせる。 ・ 不足の場合は教師が4つの条件でまとめ、説明する。	・ P.42資料 「Rさんの手紙」 資料編P.92 ・ P.42① ・ P.43②
まとめの活動	・ 自分の進路設計に対する考え方を見直すことができる。	◎Rさんの体験を参考にP.43③を用いて、5つの観点で自分の進路設計を見直し、頑張っていることや今後努力することをまとめる。 1. 進路先の内容を十分に理解していない。 2. なぜ、高校へ行きたいのかははっきりしていない。 3. 自分の適性を十分に理解していない。 4. 親に自分の希望を伝えていない。 5. 情報を集めて、進路設計を立て直したい。 ◎仲間の発表を聞いて、これからの決意をP.43④に記入しはっきりさせる。	・ 数名の生徒に発表させる。 ・ 進路を選択していく上で、先の4つの条件と相談活動が大切なことを再度確認し、その重要性を示す説話を最後のまとめとして話したい。	・ P.43③ ・ P.43④

3-2 進路計画の発表

自己理解 進路計画

1. 題材設定の理由

3年生もこの時期になると、卒業後の進路を具体的に考えなければならないという意識が深まり、家庭での進路に関わる話し合いも多くなる。反面、テストや目先のことにこだわって、よりよい進路計画を立てられない生徒が多い。そこでこの時期の生徒に、将来に向けての生活設計について考えさせ、自らの意志と努力で、自己の進路を選択することの大切さに気づかせたいと考える。

そこで、お互いの進路計画を発表し、意見を交流させることで、自分の進路計画の見直しをしようとする態度を育てたいと考えた。

2. 指導のねらい

自分の考えている進路を互いに交流させる中で、進路選択の条件を十分に踏まえて、進路計画を立てることの大切さを理解させ、自らの意志と責任において進路選択を行おうとする態度を育てる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・P.44の②に記入させ、提出させる。 ・将来つきたい職業や希望を集計しておく。 ・希望進路がはっきりしている生徒に進路計画の発表の準備をさせる。
本時	・進路計画を立てることの大切さを知り、今後の努力点を明確にする。
事後	・進路計画を立てていく中で、困っている、不安であるという生徒と懇談を行う。

<説話例> 「道は一つだけではない」

3年生もこの時期になると、現実の壁に突きあたって悩んだり、テストの結果などに悲観的になったりする人が出てきます。しかし、「未来への道は一つだけではない」のです。描いた自分の将来の生き方につながる道はいくつもあるはずです。多少遠回りの道も、時には脇道に立ち寄ってみることも人生です。

もし、今考えている目標が、現状ではどうしても無理

だというなら、軌道修正する勇気も必要です。軌道を変えたからといってそれで落伍者になるわけではないのです。自分の可能性に見切りをつけて、あきらめてしまう人のことを落伍者というのであって、遠回りでも、目標をもって、その時を精いっぱい過ごしていくのはりっぱな生き方なのです。回り道をしたおかげで、新たな自分の能力を発見したり、思わぬ近道を発見したりすること、人生にはよくあります。

今の自分を正面から見つめ直し、目標に向けてこつこつと努力していくことを大切にしていきましょう。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・仲間の進路希望を聞くを通して、進路について考える。 ・Mさんの進路計画を参考に進路計画を立てることができる。	◎進路希望の集計結果を見て感想を交流する。 ・高校進学希望者が多い。 ・希望の仕事がはっきりしている人がいてすばらしい。 ◎中学校卒業後の進路計画を立てる。	・進路希望の調査結果をグラフ等にまとめておく。 ・自分の現在の進路の見直しを書かせる。	・P.44①、② ・進路希望の調査結果のグラフ ・P.45③ 計画Ⅰ
課題：進路選択の条件を踏まえながら進路計画を立てよう。				
中心的活动	・進路計画を立てる上で大切なことを理解することができる。	◎仲間の進路計画を聞いて、自分の進路計画と比べて、考えさせられたことや教えられたことを交流する。 ・家族とよく話し合いができています。 ・興味ははっきりしている。 ・将来の夢の実現のためにどんな勉強が必要なのか、よく調べてある。 ・進路先のことをよく調べてある。 ◎進路計画を立てる上で大切なことをまとめ、発表する。 ・将来の進路計画の確認をする。 ・自分について知る。 ・進路先を十分調べる。 ・家族と話し合う。 ・通学時間や通学に関わる費用を調べる。 ◎自分の進路計画を見直す。 ・資格が必要になってくる職業もある。	・班で進路計画を交流した後、学級全体で交流させる。	
まとめの活動	・自分の課題を明確にし、今後改善すべきことをまとめることができる。	◎今日の学習から、今後自分がやるべきこと、努力すべきことは何かをまとめる。 学習面…… ・英語を重点的に学習する。 ・学習計画を立てて毎日取り組む。 生活面…… ・言葉遣いを丁寧にする。 ・時間を大切にし、遅刻をしない。 ・誰にでも元気なあいさつをする。 その他…… ・毎日体力づくりをする。 ・ピアノの練習をする。 ◎仲間の進路計画から学んだことを書こう。	・自分の課題を明らかにし、具体的な内容を書かせる。	・P.45④
			・『生きる』を集める。	・P.45⑤

3-3 進路先の調査

進路情報

1. 題材設定の理由

高校を中退する者が県内で毎年千人ほどいる。また、就職しても職場に適応できずにやめたり転職したりする者も少なからずいる。

こういった現状の原因は色々考えられるが、最も大きいと考えられるものは、入学や就職の前に学校や事業所の内容や特色等を十分に理解していなかったことである。

学力だけで進路先を決定したり、自分の考えをもたずに進路を人任せにしたりするのではなくて、上級学校や事業所の内容、特色、その他の条件が自分の進路計画に合っているかどうかを吟味させたいと考えた。

2. 指導のねらい

第1時：進路先の調査の目的や方法を理解させ、自分の希望する進路先の調査や研究を進んで行おうとする心構えをもたせる。

第2時：希望する進路の調査結果を発表することを通して、現在の進路希望先が自分の進路に本当に適しているかどうかを考えさせる。

3. 指導計画（全2時間）

事前	・希望する進路先について知りたいことなどのアンケート調査をする。
本時	①調査方法を考え、役割分担をする。 ②調査結果を発表する。
事後	・調査結果をまとめて掲示する。 ・調査上不明な点については、「一日入学」で代表者に調べてきてもらう。

<説話例> ー卒業生の作文ー（導入時）

わたしは将来歌って踊れる舞台俳優になりたいと考えていました。2学期も終わりになって、クラスのみんなは進路先を決め、わたしだけがはっきりしない状態でした。受験案内書を見ていると、演劇を勉強できる高校が

見つかりました。これだとわたしは決めました。先生に相談して手続きの仕方や受験の状況を調べてもらいました。両親も説得して、なんとか合格できました。でも、通学時間が長く朝早く家を出て、夜遅く帰る生活に疲れたし、またわたしの考えた授業内容でもなかったのが、入学当初からやめたいと思うようになりました。1学期は我慢して続けましたが、やはり無理でした。

（第1時）

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・進路先の調査・研究が、適する進路を選択するために必要であることを理解する。	◎進路先を十分に調査しなかったために失敗した事例などの話を聞く。 ◎自分の考えを書く。	・失敗事例の作文や高校中退者数の表などを提示し、それに対する考えをもたせる時間を確保する。	・失敗事例の作文 ・中退者数の表 資料編 P.91 ^[2] 、P.92 ^[4]
	課題：進路先の調査の方法や内容を確認め、実際に調査を行って進路選択に生かそう。			
中心的活动	・進路先について知りたいことを出し合い、調べる方法を考え出す。	◎どんなことが知りたいのかを発表する。 ----- 高等学校 ----- ・所在地 ・授業料 ・学科の種類や特色 ・部活動 ・卒業後の進路 ----- 事業所 ----- ・所在地 ・仕事内容 ・賃金 ・職種 ・福利厚生 ◎どんな方法で調べるかを考える。 ・パンフレット ・進路紹介の本 ・見学 ・求人票 ・先輩に聞く ・インターネットによる情報	・アンケート結果を提示する。 ・「一日入学」や見学会、職場見学があることを知らせる。	・P.46 ^[1] ・アンケート結果の集計表 ・P.46 ^[2]
まとめの活動	・調査内容を確認し、調査の具体的な計画をする。	◎各グループごとに調査先を決める。 ◎各グループで役割分担をする。 いつ、誰が、どこを、どのように。	・各グループで1つずつ調査先を決めさせる。 ・自分の進路先も調べさせる。	

（第2時）

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	課題：調査結果を交流し、進路選択に生かそう。			・P.47 ^[3]
	・進路先について知りたいことをまとめることで、進路に対する関心を深める。	◎調査結果の発表の準備をする。 ◎他のグループの発表の中で質問したいことをまとめる。	・各グループの発表時間の確認をしておく。	
中心的活动	・調査結果を交流することで、自分の進路先について、さらに調査したり進路希望を検討する意欲をもつ。 ・いろいろな進路先について理解する。	◎調査結果を持ち寄り、上級学校や事業所の特色、内容を発表し、調査した時の話題や感想をもとに意見交流する。（グループ発表）	・調査結果は事前に点検し、不十分な内容については補充、修正を加えておく。 ・調査の結果、進路希望が変わったという生徒がいたら、その理由を発表させる。	
まとめの活動	・調査結果から、自分の進路選択についてさらに考える。	◎調査を終えての感想や改めて考えたことをまとめる。	・調査結果と自分についてのまとめから、進路先を考え直させる。	・P.47 ^[4]

3-4 学校見学から学ぶ (1)

進路情報

1. 題材設定の理由

この時期は、いよいよ自分の進路について、様々な状況を考慮しながら、具体的な方向を定める生徒が増えてくる時期でもある。「学校見学」に参加し、自分の進路をより現実的に考えていこうとする積極的な生徒も何人か出てくる。

しかし一方で、「学校見学」について、必要だと感じていない生徒や、興味のない生徒も多数いるはずである。また、地域によっては、「学校見学」に参加するのは希望者のみであるため、重要性を感じない生徒も多くいると考えられる。そのため「学校見学」が、自分の進路選択の決定において大きな意義をもっていることに気づかせ、意欲的に参加できるような姿勢を育てたい。

2. 指導のねらい

「学校見学」の意義や目的を理解して、意義ある体験をしたいという意欲をもつことができる。
具体的な計画をもつことができる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・進路希望をはっきりさせ、それに関わった質問事項を考えさせておく。
本時	・「学校見学」の意義を理解し、意欲をもって参加できるようにする。
事後	・後日、学んだことを仲間と交流できるようまとめさせておく。

<説話例>

20年くらい前、先生が中学生の時の話です。やはりこの時期に高校の一日入学がありました。高校での全体の説明会の中で、ひたすら質問をしている生徒がいました。彼は、最初から工業高校の機械科に進みたいという希望をもっていました。高校での実習内容や卒業後の進路のことなど、次々と質問をしました。彼はそのやり取りの

中で、自分は「機械科より電気科」の方へ進む方が将来の希望をかなえられると判断をし、その後の進路の方向の修正をしました。目的をしっかりとって一日入学をした彼は、今では、ある電気工事会社の主任になり、生き生きと働いています。「あの時、質問をしっかりとしたおかげで今の生きがいがあったのだ」といつも照れながら、彼は話してくれます。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・「学校見学」の意義と目的を理解することができる。 ・一日入学体験記をもとに、進路を決定していく上で必要な情報や生活の姿勢、態度を考えるために、学校見学は大変重要な学習であることに気づくことができる。	◎「学校見学」について知っていることを交流する。 ・いろんな高校へ体験入学する。 ・夏休みの見学会や一日入学がある。 ・実習ができるらしい。 ・部活見学もある。 ・進学状況や学校の特徴、雰囲気分かる。 ・施設を見てくる。 ◎P.48「目標がもてた体験入学」を読み、作者が意欲的でなかった理由を発表する。 ・普通科志望であり、専門高校に興味がなかった。 ・「一日入学」の目的を十分に理解していなかった。	・実施要項の1つを見せ、内容や意義について考えさせる。 ・数分後、感想を聞く。 ・作者に十分に共感させる。	・P.48資料「目標がもてた体験入学」
	課題：学校見学の意義を考えよう。			
中心の活動	・「学校見学」の意義をしっかりと理解し、自分の将来を決定する大事な情報入手の場であることに気づくことができる。 ・「高校一日入学」は、進路を決定していく上で大切な機会になることに気づき、目的をもって参加するべきであることに気づくことができる。	◎「目標がもてた体験入学」を読んで、自分はどう思ったかをP.49①に記入し、交流する。 ・最初からしっかりと目標をもって一日入学をしたら、もっと豊かな体験になったと思う。 ・普通科志望だからという考えで、農業科や工業科に対して関心をもたずにいるのは、考え不足だった。 ◎何のために「学校見学」をするのか、P.49②に記入して考えをまとめる。 ・実際に自分の目で高校を見たり、体験を通してこれまでの進路学習の内容を検証する。 ・体験内容をもとに情報収集をし、進路選択の参考にする。 ◎「目標がもてた体験入学」を参考に「学校見学」にあたっての決意や見聞したいことなどをP.49③に記入しまとめる。 ・ただ単に見学をするのではなく、実際にその学校の生徒になったつもりで体験をしてみたい。 ・「学校見学」をする学校の教育方針や特色などについて、事前に調査しておきたい。 ・具体的な見学事項や質問、疑問を考えておきたい。	・中学校の代表として、「学校見学」をしてくるという姿勢をもたせたい。 ・ぜひ、代表に質問してきてほしいことや、見てきてほしいものを考えさせる。 ・「学校見学」に対する正直な気持ちを認めていく。 ・「目標がもてた体験入学」を参考に、自分は「学校見学」にどのような姿勢で参加するべきであるのかを、できる限り具体的に考えさせたい。 ・「学校見学」が、進路選択の大きな材料になることについても、気づかせていきたい。	・P.49① ・P.49② ・P.49③
まとめの活動	・価値のある「学校見学」になるように、事前調査をしっかりと行う姿勢をもつことができる。	◎仲間の発表を聞いて、P.49④に記入しまとめる。 ・自分の決意や、見聞きたいことを学習ノートに書き込み、発表する。	・「学校見学」までの限られた時間で意義を十分に理解した上で、具体的な質問、見学視点をもつべきであるという意識を高めさせる。	・P.49④ ※各中学校で学校見学冊子を準備するといよ。

3-5 学校見学から学ぶ (2)

進路情報

1. 題材設定の理由

「学校見学」に参加するのは希望者のみであるため、重要性を感じない生徒も多くいると考えられる。しかし、自分が進もうとする学校を自分の目で実際に見ることや、学習を体験してみることは、進路選択には欠かせないことである。そのため「学校見学」に参加するにあたって、必要な構えや意義を前時に考えさせた。

より「学校見学」を充実させるためには、事前の調査や当日の姿勢・課題意識をもつことが当日の体験入学をより豊かにするものであると考えられる。

本時では、実際に下調べをし、当日の調査の分担やまとめ方などを話し合い、生徒自身の当日の活動を明らかにしておきたい。また、同時にその後の交流の準備ができるよう、目的や心構えを踏まえた上で、事前の取り組みをさせていきたい。

2. 指導のねらい

「学校見学」を充実したものにするために、事前・当日・事後の調査や整理の視点を明らかにし、課題意識をもつことができる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・前時の「学校見学」の意義について、十分に理解させる。 ・岐阜県高校ガイドブックなどを、できる範囲で用意する。
本時	・「学校見学」の意義を理解し、意欲をもって参加できるようにする。
事後	・後日、学んだことを仲間に交流できるようまとめさせる。

<説話例>

少し前の一日入学の時のことです。一日入学のあと、学級で交流会を行いました。A商業高校に一日入学したグループは、撮ってきた写真を見せたり、実習作業の様子や卒業後の進路などをとても詳しく説明したりしてくれました。それを聞いていたBさんは、まるで自分が

一日入学をしているかのように聞くことができました。Bさんはどこの商業科にするのか迷っていたのです。この発表を聞くことができたBさんは、このグループに大変感謝しました。グループのみんなもよく調べたおかげで、進路決定に大変役立ち、自信をもって受験に向かうことができました。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・本時の活動のねらいである、事前調査作業に、意欲をもって参加できる。	◎学校についてどんなことを知りたいのかをみんなに聞く。 ・住所と位置（中学校からの行き方や所要時間、交通費） ・学校の教育目標や特色 ・部活動の活動成績や日常の練習状況 ・制服や校則 ・卒業後の進路 ・校舎や運動場、その他実験設備などの様子 ・男女の生徒比 ・授業料とその他必要な諸費用 ・学校の行事 ・歴史と伝統	・前時の「学校見学」の意義を念頭におきながら、生徒の興味・関心を中心に、次々と発表させる。 ・実際に体験入学をするので、より内容が具体的になるよう、多くの観点や視点から発表させる。	
	課題：見学する学校について調べよう。			
中心的活动	・「学校見学」を実りあるものにするために、事前の調査や当日の参加姿勢、課題意識をしっかりとつことが大切であることに気づく。	◎各高校のHP・パンフレットや資料を使って、P.50①に書き入れていく。 1. 学校の概要 2. 学校の特色 3. 通学の便 4. 学科の内容と取得できる資格 5. 進学先 ◎同じ高校見学者同士集まり、打ち合わせをする。 ・その高校見学者の代表は、司会をする。 ・出かけて調べる内容を明確にし、それぞれを分担する。 ・質問をする担当者 ・メモを整理したり、帰ってからまとめをする担当者 ・施設や校訓を確認してくる担当者 ・代表は、分担や意見をまとめる。	・各学校のパンフレットやポスター、インターネット、ホームページでの高校紹介の資料などから、学習ノートの各項目の内容に沿って、記入させていく。 ・「学校体験」に実際に行かない生徒にも分かるような発表の方法を考えさせる。 ・後日、より明確な発表ができるように質問や見学の方法を考えさせる。	・「岐阜県高校ガイドブック」 ・各高等学校のポスターやパンフレット ・卒業生からの資料も準備できるとよい。 ・P.50①
まとめの活動	・「学校見学」に対しての目的を明確にもつことができる。	◎調べてくる内容を発表する。 ◎集合時間や集合場所の打ち合わせをする。	・内容の充実している班に発表させ、他の班の参考にさせる。	

3-6 進路の決定

進路の計画

1. 題材設定の理由

3年生は進路決定の学年であることから、生徒たちはますます不安な気持ちを高めながら毎日を送っている。しかし、将来に夢や具体的な目標をもっている生徒は決して多いとはいえない。また、進路について教師や親と充分相談できる生徒が少ないのも実態である。

本来、進路選択は自分のめざす目標があってこそなされるものであり、十分な情報に基づいた相談も必要である。そこで、本題材では、先輩の進路選択をもとに、何のために進学したり就職したりするのかを考えることで、目標をもって進路選択を決定していくことの重要性に気づかせていきたい。

2. 指導のねらい

先輩の歩んだ道を参考にして、何のために進学したり就職したりするかを考えることで、目標をもって進路を決定していくことの重要性に気づくことができる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・進路希望にかかわるアンケートをする。 ・アンケート調査の際に、保護者の考え方も聞く。
本時	・進路を決定していく上で、大切にしなければいけないことは何かを考える。
事後	・授業での感想をもとに、個別に相談や助言をする。

<説話例>

「自分の進路です。希望をもって……」

今、将来何になりたいと聞かれて、野球部にも入っていないのに好きだという理由だけで「プロ野球選手！」と答えると、教室から笑いが起こりそうです。どの子も自分の実力がどれくらいあるのかを感じているからでしょう。しかし、プロ野球選手を夢見て目をきらきらさせていた幼い頃の輝きは、どこへ行ってしまったのでしょうか。年を重ねるうちに少しずつ、少しずつそんな夢も

消えていったのかも知れません。

「自分の将来は、高校の3年間で考えよう」と思っている人も少なくないと思います。それも正直なところでしょう。しかし、現時点で「夢」や「目標」をもつ人とそうでない人とは、これからの学校生活への意欲もずいぶん違ってくるものです。（あれはだめ）（これはだめ）と切り捨てていった夢がもしあるなら、もう一度、家の人との相談の中の話題にしてみるのもいいと思います。自分の進路をもう少し、明るく前向きに考えてみることは、大切ではないでしょうか。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・具体的な目標のない進路選択が多いことに気づく。	◎学級内の進路希望調査の結果を見て、感想を交流する。 ・進学希望者がほとんどである。 ・普通科への希望が多い。 ・進路のことが気になっているわりには、相談をしていない。 ・希望理由に「理由なし」が多く、何となく高校へ行かなければならないと思っている。	・事前にアンケートを行い、グラフにしておく。 ・目的をもって進路を考えている生徒がいることにも気づかせていきたい。	・学級内の進路希望調査結果
	課題：進路を決定していく上で、大切にしなければならないことは何かを考えよう。			
中心的な活動	・資料を読んで、Kさんが自分の希望する進路を決定できたのはなぜかを考えることができる。	◎P.52「看護婦への道」を参考に感想を発表する。 ・自分の進路希望をしっかりもち、決定させていったKさんはすごい。 ・親の反対を押し切ってまでも自分の希望を貫いたKさんはりっぱだ。 ・最初、お母さんはKさんのことを思って反対したんだと思う。 ・わたしなら、途中であきらめてしまいそうだ。 ◎お母さんが、Kさんの希望に反対した理由は何か考える。 ・どうせお嫁にいくのだから、何も看護師にならなくてもいい。 ・遠くにあるので、交通費がかかる。近くにM高校がある。 （私立高校だからお金もかかる） ・続かなかったら、何にもならない。 （いい加減な気持ちでは続かない） ◎Kさんが、お母さんの反対を乗り越え、進路希望を貫けたのはなぜかを考える。 ・しっかりとした目標（意志）をもっていたから。 ・お母さんとよく相談し、まわりの人（先生）の話もしっかり聞いた上で、決心したから。	・「自分だったら……」というような感想は大切にしたい。 ・進路決定には、いろいろな条件があり、いい加減な気持ちでは決められないことに気づかせたい。	・P.52資料「看護婦への道」 ・P.53①(1)
			・強い意志を貫きながらも、親との対話を十分行っていることから、単なるわがままではないことをおさえた。	・P.53①(2)
まとめの活動	・自分を振り返り、考え直したりこれから努力したりしたいことなどをまとめることができる。	◎今日の学習を振り返り、感想を発表する。 ・現在の自分を振り返り、進路決定に向けて、もう少し深く考えてみよう。 ・進路決定には、自分なりの目標が必要だ。 ・親をはじめ、まわりの人とも十分に相談して決めていきたい。	・本時のねらいに関わる感想を書いている生徒を2、3名指名し、発表させる。	・P.53②

3-7 志望実現への努力

進路の計画

1. 題材設定の理由

3年生の12月ともなると、ほぼ自分の進路先が見えてくる。そして、ともすると中学校卒業後の進路しか目に入らず、進学するために勉強だけしていればよいと思ひ込んだり、就職するからとただ何となく日々を過ごしてしまったりする生徒もいる。

そこで、高校進学や就職することは進路実現のための過程に過ぎないことを理解させ、就職後もその職業を続けていくために必要となる力を考えさせる。そのうえで、その力を身に付けるためにも、残りの中学校生活の中で、どんな努力をしていかななくてはならないかを考えさせる。

2. 指導のねらい

自分の進路設計図を明らかにさせる中で、進路実現のために、3月まで努力しなくてはならないという決意をもたせ、実践していこうとする態度を育てる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・自分の進路設計図（P.54㊦）を事前に記入し、将来就きたい職業に必要なと思われる力を書き出し、発表をできるようにしておく。
本時	・進路実現のために、3月までどのような努力をしていかななくてはならないか考える。
事後	・各自の決意文を交流しながら、今後の生活に生かすことができる。

<説話例>

もうすぐ皆さんは卒業を迎えます。そこで、皆さんの今までの生活を振り返ってみましょう。例えば学校行事では、班や学級、学年と一緒に取り組むことで、協力し合うことの大切さを学んできました。委員会や係の仕事では、自分の役割を果たすことの大切さを学んできました。また部活動では、厳しい練習に耐えたり、毎日のように練習に励んだりすることで、粘り強く取り組むことの大切さを学んできました。改めて考えてみると、皆さんが今まで取り組んできた一つ一つのことが、将来の自分につながる必要な力だと思いませんか？

今、皆さんは、卒業後の進路のことで頭がいっぱいかもしれませんが、それは進路実現のための過程に過ぎません。その先の自分の人生を豊かに過ごせてこそ、進路実現です。だからこそ、今日考えた「残りの中学校生活で努力しなくてはならないこと（決意文）」を大切に、残りの中学校生活を送ってくれることを期待しています。

今、皆さんは、卒業後の進路のことで頭がいっぱいかもしれませんが、それは進路実現のための過程に過ぎません。その先の自分の人生を豊かに過ごせてこそ、進路実現です。だからこそ、今日考えた「残りの中学校生活で努力しなくてはならないこと（決意文）」を大切に、残りの中学校生活を送ってくれることを期待しています。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
は じ め の 活 動	・自分の進路設計をまとめ、将来就きたい職業に必要なと思われる力を書き出すことができる。	◎自分の進路設計とそのために必要なことを交流する。 ～将来就きたい職業に必要なこと～ ・責任感 ・ねばり強さ ・明るく活発なこと ・仲間と協力すること ・礼儀など	・事前に自分の進路設計図とそのために必要なことをまとめさせておく。 ・抽象的な言葉が多いと思われるが、発表者一人一人を認め、励ましていきたい。 ・将来必要とされる力は、人間性であることに注目させる。	・P.54㊦、㊧を書かせておく。
	課題：進路実現のために、3月までどんな努力をしなくてはならないか考えよう。			
中 心 的 な 活 動	・「N男さんの作文」を参考にして、将来の願いを実現させるために、3月までどんな努力をしていかななくてはならないかを考えることができる。	◎小（中）学校教諭になるための進路設計図を考える。 ・高校、大学を卒業しなければならない。 ・大学を卒業すれば先生になれるのかな？ ◎先生に必要とされる力を考える。 ・生徒にわかりやすく授業をすることができる。 ・話すことが得意なこと。 ・協力できること。 ・指導を受けた時、自分を見つめ直す力。 ◎P.55資料「N男さんの作文」を参考に、N男さんの生き方や考え方について、感想を交流する。 ①N男さんが考える教諭に必要なことを交流する。 ・わかりやすい授業をすること。 ・生徒を大人として成長させること。 ②N男さんが教諭になるために決意したことを交流する。 ・毎日3時間の家庭学習 ・挨拶活動や自分の仕事、掃除などに前向きに取り組むこと。 ③N男さんの生き方や考え方について交流する。 ・将来の希望をもち、具体的な努力目標をもって生活しようとしているN男さんは立派だ。 ・将来の進路実現のために意欲をもって生活しているN男さんを見習いたい。 ・自分も具体的な目標をもとうと思う。	・P.76資料「いろいろな職業への道」を参考に、教諭になるための進路設計図について説明する。 ・文章に書かれていることをもとに、大切な点をまとめていく。	・P.76資料「いろいろな職業への道」教諭になるための進路設計図
ま と め の 活 動	・自分の努力目標を具体的にもつことができる。	◎自分の努力目標を作文に書き、発表する。	・自分なりの努力目標を2、3名の生徒に発表させる。	・P.54㊧

3-8 受験にあたって

進路の計画

1. 題材設定の理由

この時期の3年生は、個人懇談で自分の進路希望先を決定し、その実現に向けて、さまざまな努力を続けている。また、校内では、文化発表会や合唱祭、「3年生と語る会」など、この1年をしめくくる行事が行われている学校もある。

そうした中で、多くの生徒は入試や進路先に対して不安を抱き、精神的に不安定であったり、深夜に及ぶ家庭学習などで体調を崩したりする。

そこで、学級での話し合いや調べ学習などを通して、自分や仲間の置かれている状況を的確に見つめさせ、自分の進路実現と、ともに歩んできた仲間との生活の両立をはかりながら、心身ともによい状態で受験に臨めるようにしていきたい。

2. 指導のねらい

学級の中で、お互いの進路に対する不安や悩みを語り合い、受験当日までの生活、健康管理、受験の準備などについての理解を深めることで、自分で決めた進路の実現に向けて、最後まで精一杯努力しようとする心構えをより強くもたせる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・生活記録や健康観察、個別相談などを通して、生徒の心身の状態などを把握しておく。また、前年度の入試情報などを整理し、紹介できるようにしておく。
本時	・誰もがもっている進路に対する不安を語り合い、万全の状態での受験できる心構えを育てる。
事後	・生徒観察を引き続き行い、随時、相談会をもつ。また、面接練習の指導・援助を行う。

<説話例1>

■冬来たりなば、春遠からずや

「冬来たりなば、春遠からずや」これは、パーシー・ビッシュ・シェリーというイギリスの詩人の言葉です。この言葉は、厳しい冬が来たら、暖かい春の訪れはもう周近だという意味です。あなたたちに置き換えるならば、『受験を間近に控え、今はさまざまな不安や悩みを抱いているが、あきらめず努力すれば、季節が確実にかわっていくのと同じように状況は好転し、夢が実現することでしょう。』ということです。3年生になり、進路実現に向けての日々の努力や悩んできたことを忘れずに、自分を信じて、よりよいコンディションで受験に臨みましょう。

<説話例2>

■道は決して一つではない。どんな結果でも受け入れる勇気をもとう。

試験である以上、結果は出ます。しかし、それは試験当日だけで決まると考えないことです。むしろ、それまでの努力や、自己理解の延長線上にあると言えます。その意味から、周囲の助言をもとにして自分で決定した希望先に自信をもって、臨みましょう。また、目標に到達する道筋は決して一つではありません。もし、残念な結果であっても、勇気をもって、それを受け入れ、次の方法を考えることが大切です。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・仲間も、自分と同じように悩みをもっているのだと知ることができる。	◎受験を間近に控えた今の気持ちを発表する。 ・わたしも○○君と同じように不安でしかたがない。 ・今、何をやればいいのかわからない。 ・不合格だったらどうしようか心配だ。	・数人の生徒を指名し、現在の心境を素直に発表させる。（自分の弱さ、不安） ・答えにくい場合も考えられるので、事前にアンケートをとり、その結果を図表にまとめておく。	・資料「生活記録 個別相談」
課題：受験するために必要な心構えや準備について考えてみよう。				
中心的活动	・自分の進路実現に向けて、受験日までや、当日に必要な心構え、準備について理解することができる。	◎受験の心構えとして何が必要なのかをまとめ交流する。 〔前日までの意見として〕 ・学習の総復習をし、万全の体制で臨む。 ・苦手教科に専念し、学力をつける。 ・深夜の学習の取り組みで、体調を崩しやすいので、規則正しい生活のリズムをつくる。 〔当日の意見として〕 ・持ち物を確認して忘れ物のないようにする。 ・服装をキッチリとして臨む。 ・受験校の入試要項を読んでから臨む。 ・面接の心構えや準備について理解することができる。	・数名の生徒に発表させる。 <	

<説話例1>

■冬来たりなば、春遠からずや

「冬来たりなば、春遠からずや」これは、パーシー・ビッシュ・シェリーというイギリスの詩人の言葉です。この言葉は、厳しい冬が来たら、暖かい春の訪れはもう間近だという意味です。あなたたちに置き換えるならば、『受験を間近に控え、今はさまざまな不安や悩みを抱いているが、あきらめず努力すれば、季節が確実にかわっていくのと同じように状況は好転し、夢が実現することでしょう。』ということです。3年生になり、進路実現に向けての日々の努力や悩んできたことを忘れずに、自分を信じて、よりよいコンディションで受験に臨みましょう。

<説話例2>

■道は決して一つではない。どんな結果でも受け入れる勇気をもとう。

試験である以上、結果は出ます。しかし、それは試験当日だけで決まると考えないことです。むしろ、それまでの努力や、自己理解の延長線上にあると言えます。その意味から、周囲の助言をもとにして自分で決定した希望先に自信をもって、臨みましょう。また、目標に到達する道筋は決して一つではありません。もし、残念な結果であっても、勇気をもって、それを受け入れ、次の方法を考えることが大切です。

3_9 将来へ向かって

1. 題材設定の理由

卒業を目前に控え、生徒たちは、自分を待ち受けている新しい出発に対して、様々な期待と緊張が続く毎日である。この時期こそ自分を振り返るのに最適である。中学3年間では様々な出会いや体験を通して多くのことを学んだ。中でも進路選択にあたっては、心揺り動かされる体験や悩み、苦しんだときに支えてくれた多くの方々との出会いがあったに違いない。こうした進路決定の過程を振り返り、書いたり語ったりする活動を通して、やがてやってくる新しい人生での様々な困難に負けない強い気持ちにつなげていきたい。

2. 指導のねらい

中学校生活を振り返り、互いの進路設計、進路決定までの努力を認め合い、新しい進路に向かって、自信と希望をもち、ひとりだちしていけるようにさせる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・進路決定までの「自分の歴史」をまとめておく。 ・個別相談（進路決定、進学就職指導、悩み）
本時	・3年間の中学校生活を振り返らせ、進路決定までの経過をたどらせる中で、自分の人生設計を確認させ、新しい進路に立ち向かっていく意欲を確かめる。
事後	・卒業式当日の最後の学級活動につなげる。

<説話例>

いよいよ卒業を迎え、進路が決定し、心はずませている仲間もいれば、受験を間近に控え不安な気持ちでいっぱいな仲間もいることだと思います。

ここでもう一度、自分の目標・目的を再確認しておきましょう。それは、これからみなさんが歩んでいく長い人生という道のスタートラインに、現在みなさんが立っているからです。「何のために高校へ行くのか」「就職先での自分の役割は何か」、これが薄れてしまっは、今までの進路に対する情熱が無になってしまうからです。

「わたしは、ぼくは、このように生きていくのだ。」という確固たる心構えをもつことが必要です。それに加えこの先、生じるであろう諸問題に対しても、自らの力でこれ乗り越えてほしいと思います。そして、将来の進路を真剣に考え、社会において、自分がめざすものは何かを見出ししてください。

4月の入学、入社までの生活にも十分気をつけ、充実した生活が送れることを望んでいます。

これからがスタートだ！ ガンバレ！！

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・進路決定に至るまでを自分の言葉でつづることができる。	◎自分自身が進路決定に至るまでに特に心を動かされたことをまとめる。	・進路決定に至るまでの自分・仲間との関わりなどをたどらせる。	・資料「生活記録作文」など
	課題：進路決定に至るまでを振り返り、将来に向かっての決意を固めよう。			
中心的活动	・進路決定に至るまでを交流し、多くの影響を受けてきたことを理解する。	◎進路決定までに心を動かされたことを発表する。 ・仲間、親、先生との話し合いから。 ・進路情報や「高校一日入学」などで影響を受けた。 ・将来に就きたい職業があるので、最後まで夢をあきらめないためにもこの進路を頑張ってきた。	・仲間の様々な考え方に賛同できるよう助言する。	
	・これから先、心掛けていくことを資料から見つけ出し、考えをまとめることができる。	◎卒業後、心掛けていくことを自分なりにまとめて発言をする。 ・これまでの取り組みを大切にしながら自分の夢を実現させていくことは、大切なんだ。 ・何か1つのことに打ち込むことが必要だ。 ・将来のために今やらなければならないことを明確にして、努力をしなければならない。	・資料から、主人公の決意を見つけ出せるよう助言する。	・P.58の資料または生き方に関わる感動的な資料を選んでいきたい。
まとめの活動	・自分の決意、生き方についての考えを盛り込んで、仲間へのメッセージを書くことができる。	◎卒業にあたってのメッセージを書いてみる。 間近にせまっている卒業に向けて、どうしていけばいいのかまとめる。 ・わたしは○○になりたい。しかし、今のわたしは……だから～していきたい。	・具体的に誰にあてて書くのかを決めさせておく。 (保護者、兄弟、友達、後輩……)	

1 職業調べ

1. 題材設定の理由

生徒は家族の職業や仕事についてあまり知らない。実際に職場を見る機会が少ないことや、家庭での会話の時間が短くなってきていることなどが原因である。また、多くの生徒が将来の夢や希望をもっているが、まだ就きたい職業の具体的な内容を理解している生徒は少ない。これからいろいろな職業について理解させることや、働く意義や目的を考えさせることにより、正しい職業観を育てていきたい。

本時は事前に調べたり、体験したりした家族の職業を班や学級で発表させ、いろいろな職業の仕事内容や働く人の思いを理解させたい。

2. 指導のねらい

家族の職業について自信と誇りをもって発表し、また、いろいろな家族の職業の発表を通して、具体的な仕事内容やその職業に就いている人の思いを理解させる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・家族の職業について、話を聞いたり、体験をしたり、仕事内容・時間帯・その職業に就いた理由・仕事を通しての喜びなどを調べておく。 ・学級通信や学年通信を通してこの進路学習の意義を伝え、協力を求める。
本時	・班や学級で発表し合い、感想をまとめる。

4. 留意点

厳しい社会環境のもと、保護者の中には、派遣社員やアルバイト、無職ということもありえる。また、一般的でない仕事に就かれている場合もある。教師として、そうした保護者の職業について事前によく把握し、また、生徒の悩みなどについてもよく理解に努める必要がある。

生徒が、この授業（進路学習）で肩身が狭い思いをしたり、家族の方に反感をもったりすることのないようにしたい。

<説話例> 「保健室の先生（養護教諭）の仕事」

わたしの友人に、小学校で保健室の先生（養護教諭）をしている人がいます。君たちもけがをした時や体調が悪くなった時に、保健室でお世話になったことがあると思います。養護教諭の先生はけがをした子どもの応急処置をしたり、健康診断などの準備をしますが、それ以外にもたくさんの仕事をしています。修学旅行や体験学習には一緒に行き、夜は寝ないで体調が悪い子の世話をすることがあります。運動会を行う時は、事前に健

康調査や事故が起きないように器具の点検をします。また最近では、精神的なストレスで体調不良を訴えて保健室にくる子や、不登校の傾向の生徒への対応や世話も増えてきたそうです。このように前より仕事が増えてきて、医学だけでなく心理学の勉強もしておられるそうです。夏休みはそのための研修会に参加されています。その先生は、けがなどで長い間学校を休んでいた子が元気に登校してきた姿を見た時、いちばんうれしさを感じるそうです。働くことは単に収入を得るだけでなく、様々な要因をもっているのですね。ですから、様々な職業を調べていくことが大切ですね。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・家族の職業や仕事について、調べてきた内容や感想を簡単に紹介できる。	◎各自が調べてきた内容や感想を簡単に紹介する。 調べた内容・職業 ・銀行員、会社員、教師、幼稚園教諭、保育士など。 ・デパートなどの販売員、商店や飲食店の経営など。 ・スポーツ選手、作家、芸術家など。 ・仕事場でのお父さんの顔は真剣で、別人みえたかった。 ・予想していたより仕事が大変そうであった。	・調べてきた内容や感想を教師が聞いて、おおまかな分類をする。 （事前に整理して提示してもよい） ・感想を簡単に聞き、本時の学習の興味づけをする。	・P.61
	課題：家族の職業について調べたことを話し合い、働く人の仕事に対する思いを知ろう。			
中心的活动	・家族の職業に自信と誇りをもって、具体的に紹介できる。	☆『どの仕事もなくてはならないものですね。私たちのために働いてくれる親の仕事に自信と誇りをもって、発表しましょう。』 ◎各自が調べてきた内容を具体的に発表する。 （班で） 【発表内容】 ・仕事の内容 ・その職業に就いた理由やきっかけ ・仕事に対する思い （苦勞、厳しさ、喜び、誇り、生きがい、働くとは） ・発表を聞いた人は、質問や感想を述べる。 （簡潔に） ◎学級で発表する。 （班の代表者や教師が指名した生徒が発表する） 【発表例】 設計事務所の建築士 ① 設計事務所で設計図をかく。以前は製図器具を使っていたが、今はコンピュータを使って設計図を作る。仕事の打ち合わせで、海外へ行くこともある。 ② 大学で学んだことを生かそうと考え、この職業を選んだ。建築物を見て、自分も設計してみたくなった。 ③ 自分が設計した建物を実際に完成した時や、仕事先の人から感謝された時、喜びを感じる。 ・発表を聞いた人は、質問や感想を述べる。	・発表をためらう生徒のために、家族の仕事に自信をもたせたい。 ・発表の仕方や聞き方を板書して、能率的に進めさせる。 ・時間の都合上、全ての班で発表するのは難しいと思われるので、発表させたい生徒には事前に話しておき、本時では2～4名の生徒を指名する。 ・2、3名の生徒に質問や感想を発言させて、発表内容を深める。	・発表用資料
まとめの活動	・家族の職業や仕事の内容、仕事への思いが分かる。	◎いろいろな職業の仕事内容を知り、その感想を書く。 ・どの職業も専門的な知識や技術が必要だと分かった。 ・売上目標などがあって、どの仕事にも厳しさがある。 ・自分の納得いく仕事ができ、お客さんに満足してもらった時がいちばんうれしいということが分かった。	・具体的な仕事内容だけでなく、苦勞や生きがい、働く人の思いなどにも注目させる。	・感想用紙

2 自分の特性を知る

1. 題材設定の理由

1 学年の「1－7 自分を知る」や 2 学年の「2－8 自分の考えをまとめる」では、自分の特性を見つめて、良さを伸ばし、問題な点を直すことに取り組む。同様に、1 学年の「1－9 進路の計画」や 3 学年の「3－2 進路計画の発表」では、自分の特性に着目しながらも、望ましい社会人としての改善に取り組む。

ここでは、自分の興味・関心・性格から簡単に職業適性のタイプ分けを行う。これによって、自分の特性をつかむと同時に、各職業タイプに求められる特性を見ることができ、職業の選択も自己の改善も両方行うことができる。

このチェックを、何学年で実施するかによって指導展開も変わってくる。本来は、進路選択の固まっていない 1 学年のあたりで、自己を見つめる 1 つの方法として位置づけたい。ただ、これで自分に合う職業が決まったというのではなく、進路の選択に向けて、興味や関心も含めて自己を伸ばしていくことの意欲や姿勢を高めるように活用したい。

2. 指導のねらい

自己の興味・関心や性格をもとに職業について考え、職業の適性と比べながら、今後努力していくことをとらえさせる。

3. 指導計画（全 1 時間）

本 時	・自己の特性を、興味・関心・性格などのチェックを通して見つめさせ、職業の適性を考える中で、自己の改善方向を見つけさせる。
事 後	・具体的な努力を確認し、機会をとらえて認め励ます。

<説話例>

毎年、A 君からの年賀状を見ると、彼の小学校時代を思い出します。A 君は、現在は中学校の社会科の先生をしています。小学生の頃は赤面症で苦しみました。授業で指名したりすると、顔が真っ赤になって「ば、ばくは・・・」と、言葉もつまりがちになります。

ある時、将来の夢について作文を書くことがあり、A 君は「先生になりたい」と書きました。それで、先生になるためにはということで、赤面症と言葉のつまりを直すことを一緒に考えました。歌を歌う時は言葉がつまり出ないということから、話す前に心の中で歌を口ずさ

むようにしました。赤面症はすぐには直りませんでしたが、毎授業 1 回発言をめあてに努力し、言葉のつまりは一ヶ月ほどで直り、そのことで顔が赤くなることも少なくなりました。

今日の学習で分かったように、自分の特性を知り、自分に合う職業を選ぶことも大切なことです。しかし、自分がなりたいと強く願う職業について調べ、その職業に必要な知識や技術を身に付けたり、求められる態度や姿勢にあわせて自分を変えていったりすることもできるのです。

	活動のねらい	活 動 の 内 容	指導・援助の留意点	資料等
は じ め の 活 動	・職業について考えていくために、自分の特性や興味・関心など、自分を見つめることの大切さが分かる。	◎将来つきたい職業を、どのような理由で選んだのか発表する。 ・野球部にいて、野球のセンスがいいと言われるのでプロ野球の選手になりたい。 ・有名になりたいので、タレントになりたい。 ・政治に関心があり、政治家になりたい。	・自由に発言させて、その職業が本当に自分に合っているかを考えさせることにつなげる。	・関係する題材としては、 1－7、 1－9、 2－8、 3－2 などがある。
	課題：現時点の自分の特性を見つめ、どんな職業に向いているのか知ろう。			
中 心 的 な 活 動	・自分の進路に対する願いや希望を実現するために、自分の特性を確かめたり、職業について理解を深めたりすることが大切であることが分かる。	◎様々な職業には、向く特性・特徴というものがあることを知り、タイプのチェックとレーダーチャートへの記入を行う。 ◎グループの中で交流する。比較的高い点数のタイプに注目し、その職業リストの中から、自分に合う職業を確かめる。	・ホランド博士の分類では、職業を大きく 6 つに分け、それに合う特性があることを説明してから、チェックを行う。 ・レーダーチャートに記入した点を赤線で結ぶ。 ・レーダーチャートに記入しても、きわだった差が出ない生徒もいる。中でも高いところで、自分のタイプを考えさせる。	・ P.62 ・ P.63
ま と め の 活 動	・自分の今後の努力の方向が分かる。	◎自分がつきたいと考えていた職業と、今回のチェックから分かった自分に合う職業を発表し、感想を話す。 ・自動車整備士になりたいと思っていたが、S タイプで対人・サービスタイプということが分かった。もう一度考えたい。	・つきたい職業とタイプが一致する生徒、しない生徒がある。タイプがきわだたない生徒もいる。つきたい職業に合う特性を伸ばしていくこと、再度つきたい職業を見つめ直させることなど、考えさせたい。	

3 学習の見直し

1. 題材設定の理由

中学校での生活も1年を終えようとする時期である。次学年でのさらなる飛躍のためには、個々の取り組みを振り返り、具体的に課題をもつことが大切である。1－7や1－8では、自分の特徴を知り、目標に向けては、自分を一層伸ばしていくための手だてについて学習してきた。

学習面では、向上したいという気持ちはあっても、どうしていいのかわからずつまずいてしまう者も多い。また、やる気をもったときに、まず自分は何からはじめていくのかを明らかにさせておく必要がある。そこで、自分の学習のあり方を見直させ、より効果的な学習方法を身につけさせたい。

2. 指導のねらい

学習における自分自身の課題を明らかにするとともに、仲間の取り組みなどから、自分の努力の仕方について方向を見つけることができる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・P.64の①、②を書かしておく。
本時	・学習においての自分の努力について方向が見つけられる。
事後	・P.65⑤の各個人の努力目標をつかみ、前向きな姿勢を評価していく。

<説話例>

「良い輪と悪い輪」

やる気を出す→実行してみる→少し続ける→少しできるようになる→期待感をもつ→少し自信が出る→やれることが増えてくる→やる気が出る→実行してみる→……を「良い輪」という。やる気がわかない→やらない→やり始めてもすぐやめる→できるという実感がもてない→いくらやってもダメという思いが強まる→自信をなく

ず→あれもこれもできないと思うようになる→できないことが増える→やる気がわかない→……を「悪い輪」という。このどちらを走るかは、伸びざかりの君たちにとって重大な問題だ。人間だれしも、思ってもみなかったことや、あきらめかけていたことができた時、その喜びは大きい。さらに、「よしやるぞ!」という気持ちが沸き上がってくるものである。しかし、その気持ちは、やろうとして、取り組んだものしか味わうことができない。ぜひあの心地よい気持ちを味わってほしい。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	これまでの取り組みを振り返ることができる。	◎自分の学力についてまとめ、自分の得意な教科、苦手な教科について、自分の取り組みを具体的な事実をもとに発表する。 ・前のテストの取り組みを反省しながらやったら、少しずつやり方が分かってきた。 ・数学の図形問題が苦手で、すぐ分かる人がうらやましい。 ・時間をかけても、社会の内容が十分には身につかない。 ・英語の長文が出てくると、あきらめてしまう。 ・理科の電気のところが、ややこしくて分からない。 ・国語の学習の仕方が、分からない。	（事前に教科担任に学習方法についてのアドバイスを取材させてもよい） ・P.64①、②でまとめることで自分の学習に対する姿勢を振り返らせる。 ・仲間も自分と同じように学習においての悩みを抱えていることを理解させる。	・P.64①、② ・テスト成績表など。
	課題：仲間の取り組みを参考にして今の学習を振り返り、課題をはっきりさせよう。			
中心的な活動	・自分を振り返るとともに、仲間の取り組みから、自分が今後努力する方向が分かる。	◎班交流を行って、「得意になった理由」や「不得意科目をなくす工夫」について、P.65の③にまとめる。 ①班交流 班長が司会をして具体的に工夫を出し合う。 ・復習に時間をかけて、ノートをまとめ直している。 ・授業のノートは、板書だけでなく、余白にメモをとるようにしている。 ・数学の問題をパターンに分けて、練習している。 ・英語の基本文を自分のものにすることに重点をおく。 ②P.65の④に記入する。 - 班交流で出されたことやプリントをもとに記入する。	・仲間の頑張り気づかせる。 ・それぞれに合った学習法があることを理解させ、自分に合ったものを見つけ出していけるようになるべく多く出させる。 ・資料をうつすのではなく、なるべく仲間同士でアドバイスし合うことを大切にさせる。	・P.65③ ・P.71①「学習の進め方」など ・P.65④
まとめの活動	・今後の努力目標を設定し、実現に向けて精いっぱい取り組む決意をもつことができる。	◎本時の学習から、今後、自分の学習をどのように改善していくかをまとめる。 ①P.65の⑤に記入する。 ②班内で取り組みを発表し合い、交流する。 ◎本時のまとめを発表する。 ◎先生の話聞く。	・具体的な目標となるように配慮する。 ・社会のまとめのノートを作る。 ・英語の熟語を書いて部屋に貼る。 ・計算練習を毎日決めただけ取り組む。 ・自分の決意を仲間と交流させることで、その実現に向けてより強い意志をもたせる。（事後に、教科担任に学習方法のアドバイスを取材させてもよい）	・P.65⑤

4 高校の先生（先輩）から学ぶ

1. 題材設定の理由

この時期、生徒は進路先の情報を間接的に中学校の教師や先輩、学校の案内パンフレットなどから得ているが、それを確かなものとして受け止めている者は少ない。

そこで、高校の先生（先輩）から学習内容や生活の様子などを直接聞くを通して、進路先のいろいろな細かい情報をそれ以後の進路選択に生かすだけでなく、今現在の自分の生活をも振り返らせたい。

2. 指導のねらい

高校の先生（先輩）から高校の学習の内容や生活の様子などを聞くを通して、自分自身の進路先の決定条件を明確にし、さらに今現在の生活について見つめ直させたい。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・現段階でもっている希望の進路先の情報をまとめさせておく。
本時	・希望進路先の知りたい情報を講師の話や自らの積極的な質問によって入手させ、今現在の自分の生活についても振り返らせる。
事後	・自分の適性や希望進路先の内容を考えた進路選択ができるようにさせる。

<説話例>

中学卒業後、高校に進学する人や社会に出て就職する人がいると思います。義務教育終了後の進路の選択は、それだけ安易に考えてはいけないことです。本校でも、進路先の情報をほとんど知らないままに進んで、途中でやめた先輩も実際にいるのが現状です。また、今の自分の生活がこの先の生活にも大きく関わってくることもあります。学習習慣が身についていないとか、時間に甘い

生活に慣れていたりなどすると、進路先で大変な苦労をしたり、そこを続けられなかったりという例も増えているのです。そこで、みなさんは、進路に向けて、今の生活を見直すことで自分の特性を伸ばしたり、自分にとってその進路が合うかどうか進路先の情報をできるだけ詳しく集めたりしながら、よりよい進路決定をしていくことが大切になってきます。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・講話を聞くにあたって、知りたい情報や確かめたいことを考え、意欲的に講演に参加することができる。 ・講師の紹介を聞いて、内容を聞き取りろうとする意欲をもつ。	◎高校のパンフレットなどを参考に、視点をもちて知りたいことや教えてもらいたいことを確認しておく。 質問に関する視点（学校） ・教育方針 ・授業や実習内容 ・クラブや部活動の様子 ・卒業後の進路状況	・高校のパンフレットなどを利用させる。 ・教育方針や特徴に関する視点を与える。 ・卒業後の見通しももてるようにする。	・高校の案内パンフレット
	課題：高校の学習、生活の様子を聞き、いろいろな情報を得るとともに、それを自分の進路選択の参考にしよう。			
中心的活动	・講話の内容から希望進路先の内容をつかみ、自分の進路先決定の条件と照らし合わせるができる。 ・今、自分たちがしなければならないことに気づくことができる。	◎講話の内容から新しく知った情報などをまとめ、メモを残す。 （学校） ・教育方針 ・授業や実習内容 ・クラブや部活動の様子 ・卒業後の進路状況 ◎講話の内容から自分たちに期待されていることを聞き取り、メモに残す。 ◎準備しておいた質問をする。 ・学生の様子 ・休暇の内容 ・授業の中身等	・P.66②に細かくメモを書かせる。 ・学校の先生（先輩）の思いを聞かせ、自分たちに期待されていることに留意させる。 ・進路先決定の要因となりうる点について多様な質問をさせる。	・P.66② ・P.66①
まとめの活動	・新しく知った情報から、自分の進路設計に対する考え方を見直すことができる。	◎講師の先生（先輩）の講話を聞いて感想を書き残し、自分の進路の決定に生かす。 ・自分の適性に合うかどうか検討する。 ・教師（先輩）の考えを通して、自分たちの生活を見つめ直す。	・P.66③に感想を書かせ、自分の進路に対する考えをまとめ直させる。	・P.66③

5 自分はどんな生き方を願っているか

1. 題材設定の理由

勤労観、職業観については1年の身近な人々の職業、2年の職場体験を通して働いてみえる方の話を聞くなどから理解することはできる。

ここでは、働くことと生き方について目を向けさせ、自分の進路計画を考えさせる。生き方について考えている仲間の姿や、自分がどんな生き方をめざしているのかをつかみ、これからも多方面から考えて、進路決定しなければならぬことを理解させたい。

2. 指導のねらい

将来どんな生活を送りたいか考えさせ、自己の進路に向かって今後、どんなことを考えながら、進路決定をしていかなければならぬかをとらえさせる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・「1-9」「2-9」の進路計画を振り返らせておく。
本時	・仲間との交流の中で、生き方を多方面から考え、自分の進路計画を決定していくことに気づく。
事後	・「将来の生き方」を目標にしていくように認め励ます。

<説話例>

どんな生き方をしたらいいか、先生だって悩むことがあります。ふと見たTVで、世界で活躍する偉い人を紹介する番組を見ました。

その方は、雨宮清さんという人で、23歳でエンジニアとして建設機械会社（油圧ポンプを利用したショベルカーを開発する会社）を設立し、順風満帆な人生を歩んでいたそうです。12年前、47歳の時に仕事で初めてカンボジアを訪れ、想像を超える貧しさと、地雷（内戦があり、いたるところに地雷がしかけてある。）で手足を失った子どもたちを目の当たりにします。その時「もし自分の家族が地雷の被害にあったら自分はどうい思いをするだろうか」という気持ちが技術屋である雨宮さんのプライドに火をつけ、なんとか地雷除去を成功させたいと強く思ったそうです。

それから爆発による衝撃や熱に耐えうる地雷処理機を造り、地雷を取り寄せ何度も耐久テストを重ね、改良し1998年に第一号機が完成し、1999年よりカンボジアで処理を開始。現在では世界6カ国で54台の地雷処理機が活躍しています。

地雷撤去に携わって8年、雨宮さんの地雷処理機は、従来の手作業の20倍のスピードでの作業を可能にし、地雷を爆破してから除去できるようになり、安全性も格段

に向上しました。実際の地雷処理機に自ら乗り込み地雷撤去を行っている雨宮さんを見た時、なんてすごい人なんだと思いました。

雨宮さんの熱い思いは地雷除去のみでなく、雨宮さんの造り出した地雷処理機には、地雷処理後、農地としてその土地を整備し耕せるように農耕用アームもついていました。番組中、5年前に地雷撤去を行ったという元地雷原へ雨宮さんたちが訪れる場面があり、その土地は現在美しい畑となっていました。これが本当のカンボジアの姿なんだと思いました。また、その畑を見つめる雨宮さんの顔には成功した喜びの表情があり、感動しました。

雨宮さんの生き方を知り、自分だけのために生きる生き方しか考えていなかったのですが、人のために生きられたら、すばらしい生き方ができるのではないかと感じました。雨宮さんほどのことはできないかもしれないけれど、ほんの少しでも人のために生きる進路を選んでみたいと思いました。

誰もが雨宮さんのような生き方ができるわけではありません。雨宮さん自身、47歳でカンボジアに仕事で訪れる機会があったことがきっかけで、生き方が変わったのです。みなさんにもそのような、人生のチェンジがあるかもしれません。大切なことは、何気なく生きるのではなく、その時その時に自分の生き方を見つめることです。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等																																
は じ め の 活 動	・様々な生き方について理解を深め、自己の興味・関心を確かめることができる。	◎将来どんな生活を送りたいか①～⑥から1つ選び理由を発表する。 ①家族第1、仕事は第2 ②なにがなんでも有名人 ③仕事と生きる キャリアウーマン、エリート社員 ④趣味に没頭！5時から男、5時から女 ⑤一攫千金、億万長者！ ⑥ボランティア。自分のためより、人のため	・①～⑥の生き方について簡単な解説を加えながら記入させる。 ・その際、選んだ理由を簡単に説明させる。																																	
	課題：あなたは、将来どんな生活を送りたいと考えているかまとめてみよう。																																			
中 心 的 な 活 動	・仲間の多くの意見を参考にして、自分の生き方とくらべ、自分の進路計画に対する考えをまとめることができる。	◎グループで自分の選んだ生き方のよい点と問題点を話し合う。 よい点 ①家族は大切。家族が温かい、愛情が育つ ②収入が多い、まわりから人気 ③カッコいい ④自分の好きなことができ、楽しく過ごせる ⑤遊んでくらせる ⑥得るものが多い、達成感がある 問題点 ①ある程度収入がないとぎくしゃくする ②調子が悪いと収入が減る ③結婚しにくい、離婚しそう、子育てが大変、ストレスがたまる ④遊びすぎて金に困る、家族からいやがられる ⑤億万長者になるまでが大変、心が失われる、働く大切さを失わない ⑥お金に困る ◎グループで話し合ったことを交流する。 ◎仲間との交流から、あらためて自分の進路計画は、どれにあてはまるかP.67①に記入し確認する。	・よい点、問題点を記入する時は①～⑥の番号を最初に記入してから話し合った内容を書いていくとよい。 ・環境や育児、金銭的なこと、結婚、老後など、多方面から話し合うことができるようにする。 <table border="1"><thead><tr><th></th><th>生き方</th><th>よい点</th><th>問題点</th></tr></thead><tbody><tr><td>①</td><td>家族第1、仕事は第2</td><td></td><td></td></tr><tr><td>④</td><td>趣味に没頭</td><td></td><td></td></tr><tr><td>⑥</td><td>ボランティア</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> 楽しい生活 人のため ・黒板に模造紙をはり、説明させる。 ・代表者の発言を尊重して、話し合いの内容を広める。 ・P.67①の1～8の生き方について補足する。		生き方	よい点	問題点	①	家族第1、仕事は第2			④	趣味に没頭			⑥	ボランティア																			・グループごとに左のような枠を用意しておき、よい点・問題点を書くための模造紙、マジックで書き込みはりつけるカードを作成させる。
	生き方	よい点	問題点																																	
①	家族第1、仕事は第2																																			
④	趣味に没頭																																			
⑥	ボランティア																																			
ま と め の 活 動	・「将来の生き方」をテーマに書き、どんなことを考えながら進路決定をしていかなければならぬかをまとめることができる。	◎「将来の生き方」をテーマにP.67②に記入し、交流する。 ※教師の説話	・静かに自分の考えを振り返らせ、書かせるようにする。 ・優劣をつけるのではなく、どの考えも尊重し認めている。	・P.67②																																

職場体験資料

職場体験学習は、社会人の方々とのコミュニケーションのしかたを学ぶ貴重な機会です。ここで紹介する例を参考に自分で工夫してみましょう。

電話

●最初に体験先（希望先）に電話するときは
「〇〇立〇〇中学校〇年の〇〇と申します。このたび職場体験学習の受け入れをお願いしたいと思っております。担当の方はいらっしゃいますか」

●担当の方が出たら

「〇〇立〇〇中学校〇年の〇〇と申します。おいそがしいところ、おそれいます。このたび職場体験学習の受け入れをお願いしたいと思ひましてお電話しました。いま、簡単にご説明してよろしいでしょうか」

(相手にいま時間があることを確認してから、目的や日時の希望など必要なことをわかりやすく伝える。まとめた書類があれば、それを送ることを伝える)

●すぐに返事をもらえない場合は

「では、こちらからまた、お電話します。いつごろお電話すればよろしいでしょうか」
（担当の方の部署と名前を聞いて、メモしておく。相手が「自分から電話する」と言うこともある）

「ありがとうございました。失礼します」
(どんな内容でも、必ずお礼を言って電話を切る)

手紙

●書き出しの言葉

「前略 先日は職場体験学習のために貴重なお時間をさいいただきまして、ありがとうございました」

●手紙で伝える内容

※伝える内容にきまりはありません。いそがしい時間をさいてくださった方々に自分は何を伝えればよいか、自分で考えて書いてみましょう。

(例)

- ・どんなことが勉強になったか。
- （仕事の内容や進め方、自分の性格や行動など）
- ・いちゃん印象に残ったことは何か。
- ・体験先で受けた親切や気づきかへの感謝の気持ち。

●手紙のしめくくり方

「私は〇〇で学んだことを、これからの〇〇や〇〇に（どんなふうに）生かしていきたいと思います。本当にありがとうございました」

あいさつ

●体験先に着いたら

「おはようございます。〇〇立〇〇中学校〇年の〇〇
です。職場体験学習にまいりました。〇〇さんはいらっ
しゃいますか」

●案内され、担当の方に出会ったら

「こんにちは。〇〇中学校の〇〇です。おいそがしいところ、お世話になります。よろしくお願いします」
(何人か一緒に体験する場合は全員が自己紹介する)

●1日の体験が終わったら

「今日はありがとうございました。今日学んだことを生かして、明日もがんばりますので、よろしくお願いします」
(できれば、今日の感想などを付け加えましょう)

●体験学習がすべて終わったら

「おいそがしいところ、いろいろと教えていただき、ありがとうございました。ここで学んだことを、明日（来週）の学習や生活に生かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。さようなら」（できれば、感想などを簡単に伝えましょう）

言葉づかい

●体験先の方と話すときは

※わからないことや困ったことがあるときは、早めに質問したり相談したりすることが大切です。

「○○さん、○○について教えていただけますか？」

「○○のしかたがわからないので、教えてください。」

「さきほど説明していただいたのですが、○○を忘れてしまいました。すみませんが、もう一度教えてくださいませんか？」

「はいおっしゃる○○は、○○のことですか？」

「わかりました。ありがとうございます。」

「すみません。○○してしまいました。どうすればいいでしょうか？」

●お客さんと話すときは

※体験先の方の指示にしたがいましょう。

「こんにちは」

「いらっしやいませ」

「ありがとうございます」

「もうしわけありません」

「私はここで職場体験をさせていただいている者です
ので、よくわかりません。いま店の方を呼んでき
ますので、しばらくお待ちください」

職場体験学習報告レポート

氏名	番	組
...	...	...

訪問先 日本モンスター9-1

〒 484-0081
 住所 大山市大山宮林26
 電話
 責任者名

◇職場での1日の活動内容

8 9 10 11 12 1 2 3 4

朝 練 準備	清 掃	昼 食	飼 料 量	清 掃					

◇職場の方に聞いたアドバイス

・作業に必ずずうずで掃除
 ・ホスをうで使って掃除

後輩へ！

中後半端は許されないの
で、気を抜かずにもかり
最後までやりとげるように！！

(先月度と訪問直前を語る後輩へのアドバイス)

◇調査事項

(1) 主な仕事内容の紹介

清掃、えさやり
飼料の計量、スミ詰め

(2) 仕事をする上で

◇ やってよかったこと

小屋を掃除して、まわりになる
と気持ちがいい！！

◆ 大変なこと

水を使ったが、99℃、熱や
冷たさがきびしい！！

使うことを教わりました。食でかすや、フシが床にこびりついていて、こすてもこすてもなかなか取れなくて大変でした。担当の人が手を見えてくれて、とても手際が良かったけど、僕がやると、時間がかかるし、ホースの水がかゆ。たりして、苦労しました。でも、サレたちが快活に、健康に過ごすためにはかせない仕事だから、とてもやりがいがあるし、しかも小傷がきれいになると、気持ち良かったです。自分の仕事をこなした後の達成感とても良くて、これが仕事をする上での喜びの1つな味なあと思いました。屋には、明日の分の飼料を、場所ごとに分けていく仕事をしました。僕はりんごを担当しました。他にも、みかんやいも、バナナなどがあり、僕たちは皆で分担してやっているから良いけど、普段はもとより少ない数でこの仕事を毎日しているの、とても大変だなと思います。お家さんの目には映らないけれど、喜ぶことが増えている人からいることを知りました。空にえさ詰という作業をしました。お整人が買ったサレにあげると、紙テープに80枚詰める仕事です。お整人に買ったばかりのサレから、数を間違えてホリヌーンは許したり、と指導してもらい、

職場体験記

1日目、まずは朝礼から始まりました。何を話しているのかはよく分からないけれど、これから仕事が始まるという緊張感がありました。その後、2人1組になって、それぞれ担当の場所に移動です。僕は1日目、アジア館の担当になりました。アジア館に着くと、まず、長靴をはいて帽子をかぶり、マフラーをつけた。衛生的にも気をづかっています。最初の仕事は、机の上を寢室から、外のおりに出すことです。担当の人がドアをたたいて外に出させて、全部が出たら僕が棒を出し入れて机にのこるを出してドアをしめてですが、棒がながなが動かなくて、渋くなってしまい、少し迷惑をかけてしまいました。次に、おの上からえを投げ入れる仕事をしました。全部のおりでバケツ1桶のキャパを分けていくのだけれど、不配分がおいでで最後のおりには入らなくなってしまいました。また迷惑をかけてしまいました。机の上のりがもつもぎ動いていて、しかり食やいた元気が証拠というのを教わりました。それが終わると、いよいよ掃除が始まりました。ホースとデッキブラシで、小屋のすみずみまでブラッシュ、こすっていきます。ホースをかけるために、ホースを指で折曲げて

社会に出て、向かいをおこなっていき上で大切なことだ
なあと思いました。

2日目は南北館の担当でした。1日目と同様、小屋の清掃
が中心の仕事でした。どろんどろん小屋の清掃を終わらせていった
のだけれど、途中で、「今更だよとこころ全部やり直して、」と
言われてしまいました。僕が残っていたフンを見落としていた
からです。僕がというのは、中途半端なことは
許されず、常に完璧が求められるということも学び
ました。

3日目は重労働の担当でした。ハムスターやササキなど
の小動物の小屋の掃除をしました。可愛らしい小動物
達とふれ合いながら仕事をして、命の尊さなどを学び、
ここができました。休み時間から仕事を始める時、ダラ
ダラ歩いていたのが注意されていました。まだまじり意識
が足りなかったと、反省しました。

3日間の職場体験で、社会に出て働くということの
厳しさなど、本当にたくさんのことを学びました。ここで
学んだことを、これからの学校生活、自分の将来に生かして
いきたいです。

(各務原市立緑陽中学校より 協力していただいた資料)